

人企業心、責任などが基調となるものであるが、此れ等の思想を排除する國に於て、此制度の發達が健全なり得る哉否や。經濟力は隠す可きで無い此條件の下に貯蓄が出来る。國家經濟の各方面に資本の利用、商業の發達があつて、一國經濟活動と緊密なるものとして、始めて強固なる幣制が立つと見る可きであらう。然るに貯蓄を不道德として排し、忌む可きとして教える國。況んや資本の利用や、商業活動を夢想にも出来ぬ國では、將來に如何なる傾向が顯はれて來るであらうか。革命家は銀行を通して、國の最高權を把握すると主張はして居るが、私人の預金は極めて少額であらう。私人は銀行に預金するを欲せぬ。貯蓄があれば**ダイヤモンド**を買ふ、舊金貨を買ふ。死藏するのである。して見れば、新幣制は營養素を缺く食餌であるとも言ひ得る。焉ぞ知らん、此營養素が幣制を強固ならしむるに不可欠のものである。

外國に於ける露國通貨の下落は、直ちに國內に於ける通貨の下落を誘致する。

故を以て露國貨を國外へ携帶することを禁止する。公定爲替率以外の率を以て、露貨を賣買し、また指定銀行以外に於て、爲替事務を取扱ふを禁止する。貿易の均衡を維持する事が絶対の必要である。二三年入超を連続すれば、準備金は無くなつて終う。貿易が國營の獨占であるから、官僚的であり、人爲的であつて、他國の様に實際の商取引の諒解の上に、基礎を措くもので無く、國家經濟から絶縁されたものであるから如何にもして輸出をして輸入よりも大ならしめ様とする。輸出の増大は簡易に出来るもので無いが輸入の制限は一の命令で出来る、やつて居る。

物價引下と安定とは其目的を達したが、其他は凡てが人爲的であつて、夫れは國家社會主義が、資本主義に基礎を措かぬからだ。新幣制は資本主義再建の具であるが、國家社會主義と幣制との兩立は兩者健全なり得る乎、抑また妥協を進めるにある哉。兎も角外國貿易の獨占と、爲替の統一把握と、幣制とは不可離の



ものである。外國貿易國營獨占の理由は多々あらう。然し主要なる理由は容易に想像し得る。

革命直後外國輸入品の決済に對して所藏金貨、農産品を以て之れに充てた。物資の大缺乏は輸入の大量を豫測せしめた。金銀の流出は財政の基礎を危くするは明かである。決済の途は、國營貿易で輸出を増して、輸入を制限するに在る。以て國內産業の恢復を計つて、自給自足を目標とし、準備金銀の増加を爲すが緊切事であるからである。國家自らが輸出入の計畫を立てる。財政が基礎を爲すものであるからである。共產主義即私有財産を認めぬ。個人に貿易權を許容すれば、此の原則に反するのである。

貿易を開放し、内外の經濟活動が直接接觸すれば、資本主義は決河の勢を以て

侵入する、共產主義との兩立が困難であるからである。

主義、主張の確保の上に、また國家存立の上に貿易國營論は一九二二年十月不變の原則と決められたのである。

一九二六年度輸出は、約七億七千五百萬留布で、輸入が六億九千萬留布、双方共戦前の半額に近い。

## 共產黨

共產社會主義の、新社會の出現を企圖する爲めに政權を把握した。爲其に無産者獨裁政治を、絶對主張支持する政派が、共產黨である以上、有一無二が原則であるとする。其の有るものが共產黨であるから、絶對一黨主義即他政派の存在を許さない。共產黨が政治の批判を爲し得るので、此黨以外の者が政見を發表すれば反革命罪に問はるのである。故に露國では黨と云ふも國家と言ふ



も同じ意味に使はれる。政府の上に共産黨が嚴存し、共産黨大會に於ける幹事長の演説が、其儘政府の施政方針であつて、議事決定は其儘政府へ移牒されて實施せられる。政府の上に共産黨の有る事を知らねばならぬ。同時に革命後の十年は、權勢の中心を政府に集中した結果、順序としては、黨は政府の上に在るが、事實は黨か政府に聽從するに到つた。辯論の雄たる、トロツキーと、默々たる、スターリンの争が、遂に後者の勝利となつたのは、後者が政權の實を握んで居からである。

無産者及農民の民主的獨裁が實現出來て、革命は正義化すると、レエニンは言つて居るが、此獨裁は共産黨の幹部が排他的で、自己至上、自己安全と言ふ様な傾向が多いと見るのも僻目ではあるまい。

權勢の濫用が自然の結果であり、撰擧の代りに指名で決める。其處に不平が醸される。政策は黨で決める、實行は政府がやる。從て利害の直接の決裁は

政府の手にある。數年立てば情弊が出来る、動かぬ水は腐るのである。斯る仕組は遂に副産的勢力を作り、遂に不拔の實力となる。古今史上に幾多の實例がある如く、露國に於ては政策の決定に、權能あると同時に、政府を自由に頤使し得る、關係にある者が遂に實力者となつた。其始祖レエニン然り。其使徒の中ジノビエフ、カメネフ、スターリン、三頭政治を形成したが、遂にスターリンの天下となつた。之れ實行機關たる政府との個人的關係の深淺、疎密に依る結果である。トロツキーの遠心的傾向に出づるの已むを得ざるは、實力より自然に遠かる結果に過ぎない。恐らく何れの政黨首領でも、政局に立てば首領の職能は黨員の不當な要求を卻くる事であらふ。此職能を盡せぬものは所謂貫録の足らぬものだ。共産黨では命令し、服従せしめ、違反せしめざるが手腕である。即專制で行き度いのである。專制の外に方法を持たぬ。規律的統制を強ふる。黨員たる利益は失職を免る、何か職業を有つ特權であるが、給料は非黨人よりも低く、犯



罪した場合、非黨人よりも重罪を以て斷ぜられる。給料は大官より小使に到る迄、最高二百二十五留布である。權を與ふものに録を與えず、録を與ふるものに權を與えぬのである。其代り權勢と名譽とが無限に與えられるのである。翻つて黨の過去を見ると老黨員は流刑の苦貧の腦みに半生を過ごして、今や時到来りと勇んだ。若いものは新露國の新建設に身を挺して立つた。家庭の羈は切れ、兒と親とは離れ、妻と夫とは別れた……家庭の義務と一致せぬのが黨の精神……斯うして社會的、政治的事業に這入つたものの、其方法遂行意の如くならぬは複雑な人の世の當然。之れに反して黨規律の嚴重に忽ち失望迷妄、暴露：自暴自棄……共產黨は幾多の哀史、悲史を持つて居る。革命は絶間無い現實の闘争であつた。マルキシズムで武装した猪突武者であらざる限り幻滅を感ずる。革命は音楽でも無く、美でも無い。況や喜びでもない。多くの黨員は失望した。表面の沈黙、冷え切つた沈黙、其抑壓の反映で不満を深く地下室へ沈める。

秘密室へ集まつて醜態となり、聽てゲペウに發見されるや否や、首領逮捕、反革命斷罪、投獄とトロツキは包みきれぬ不満を述べて居る。彼は畢竟此運命を追ふ者であつた。

トロツキが黨の民主化を叫んだ時に、二十萬人の労働者を入黨させたが、トロツキの所説を解する智識階級者を排除した。トロツキの勢力に抗する爲であつた。彼れは黨中の錚々たるものであつて、同時に一敵國であつた。共產黨は……革命の仕事をした労働者に對しても新經濟政策の再建の爲めには不用者だと言ふ事を躊躇しない。今日では労働者を可愛がらぬ。規律と勤勉な労働と、生産を強調する事は舊時代と異らぬ。舊主人たる資本家階級と新主人たる共產黨……職業組合とは異なる處が無い。口八ヶ間敷しい者丈は黨へ入れてやるが、否らざるものは黨員仲間にならぬ。従て人心の動搖離反免れ難いのである。



實力派の幹部派と理想派の反幹部派の争ひは、勝敗の決は見え透ひた事である。實力と理想との争だからである。其理想派が一の言論機關を有せぬ、所論を發表させぬ。國民の批判をさせぬ様にする。幹部派が理に於て敗けて居る事は之れで想像が出来る。智識階級は耳あつて聽く能はぬ境遇に置かれてある。新經濟政策實行に伴つて、收賄、飲酒、瀆職と言ふ道德標準で黨員の大清掃をやつたが、追々とグレシヤム法が通用されるのでは無いかとも思はれる。

乍然共產黨の眞骨頭は、越格なる黨員に依て支持される、冷靜な、眞面目な、道德な人、規律の人、黨利の爲に凡てを犠牲にする眞實黨員も尠しとせぬ、宗教的、理想的、主義の哲學の持主が上級幹部として活動して居る。

黨員の聲援無くんば、何事も出来ぬ世の中。生存上の必要條件は有力なる黨員と接觸を持つ事である。社會的、經濟的、活動の頻繁となるに伴つて、黨員は引張り紙薦である。眞に黨員は應接間の英雄であり、新富者の寵愛する處となつ

た。之れ何を物語るか、新經濟政策決定と共に、資本主義復活、營利本位の復活、資産の蓄積等は共產黨の爲めに大なる危険であつた。譬令制限あるにせよ、資本主義露國が勞働階級代表者の指導の下に進化し様とする、誰れか此指導者が孜孜として其天職に忠實なりと考えるものあらんや。此問題は六年前に六十萬人の黨員を清掃して、三十八萬六千人とした。而して今日の黨は清掃前と變らないかも知れぬ。六年前と變らないかも知れぬ。共產黨は革命の鹽である。云ふから鹹味を失つてはならぬ。共產黨が腐敗分子排除に鋭意なるは、自己存在の不可缺條件であるが同時に大矛盾の結果である。

自らの勞務に依りて衣食しつつある、多數民衆の眞の利益の爲めの政治、秘密外交を排し、臭ひものに蓋する主義を排する黨に、毫も朋黨的の争議は無いとしての一黨主義は、複雑な人間の世に、絶えず内訌となり、朋黨を作る。トロツキイ失脚しても直ぐに第二のトロツキイが出る、一黨主義の當然の結果であり。ソ



ウエツト露國の悩みである。

### レエニン崇拜

レエニンは寔に超群の人であつた。彼れの死は即ち共產主義政治の終末だと云ふのが世界萬人の期待であつた。勿論露國內では嘗て王者に、レエニンの死程國民の哀悼を唆つたものがなかつたと云ふ。此國民的感情の表現を利導して、レエニン崇拜に歸結せしめた。即レエニンの所論、生涯の事業を絶対不可侵なものとして、敢て侵犯する事勿らしめんとした。此新イコンの創設には、ラデツク、トロツキ等の反對があつたが此種の反對分子を拘束するのが、レエニズムを鑄型に入れた眞の目的であつたらしい。レエニン福音の保存の決定は、之れが批判を嚴禁した。以てレエニン死後の共產政府の永續性を確保した。レエニン崇拜の形式は、露國に遊ぶ者の到る處に目睹する處である。正教素地

深い露國では、此教祖振り扱ひは容易であり、又有効であるのである。露國ではマルキシズムを云はずして、レエニズムを云ふ。レエニズムは、之れが正統註釋の外は不敬であり、異端であり、地獄行でありとする。凡てが、レエニン曰くで始まり、レエニン曰くで終る。レエニズムとは何ぞや。スターリンによれば、レエニズムとは無産者革命の理論と戦術とであり、同時に無産者獨裁の理論と戦術とである。更らにカ―メネフの説く所を聽けば、マルクスの説いて及ばぬものが二つある。其一は如何にして、社會主義革命が達成せられるかと云ふ事と、其二是政權把握後の労働者の地位及労働者が解決する諸問題である。此の二項はレエニンが著述したのみならず、其實踐活動を以て啓示した處であるから、レエニンがマルクスを完成したと謂ふ可きである。遮二無二政權の獲得へ、無産者獨裁への革命思潮の集中、天下を取るか乃至は、一卒で終るかは、凡てレエニンの教えた處であると。



斯うしてレニニズムを鑄造して不可侵なものとした。凡ての論争はそれがレニニズムに當て箴まるか否かで決められる。トロツキー一派は此レニニズムで苦も無く弾壓されたのである。

共産黨は、最高幹部即政治局に有能にして經驗の士を集めて、黨指導に任ずる。乍然大レエニンに比肩し得る者が無い。レエニン歿後滿三年を経過して、スターリン稍其地位を高めて、レエニンの後繼者たるの觀がある。黨指導者としてのレエニンは棟梁的秘訣を持て居た。良心的勇氣、真正直敵を攻むるに躊躇せぬ大膽さに於て後繼者に缺くる處は無いか。レエニンは黨員の自負を戒めて凡ての政黨は自負の時代に到達して、破滅の運命を見出すと云つた。彼れは死に近いて更らに黨員を警めた曰く共産黨は三つの大敵に面して居る。其一は黨員の横暴である、其二は國民の文盲である、其三は黨員の腐敗であると。レエニンを偉大ならしめたのは、此道徳的勇氣に外ならなかつた。内省である責任

である、眞に世の師表たらんとしたのである。此の資格が缺くるに於ては、レエニンが占めた聲望と實力とは獲られぬ。のみならず黨は驕るもの久しからずの歴史的末路を追ふものであらう。

### 労働組合の消長

革命は行き過ぎを演ずるものである。故に漸次當然な處へ引き返す。之が革命の進化である。露國労働組合の消長、悲喜劇が此進化の道程であつて、露國労働組合運動は、一般的組合主義の傳統への復歸へ進化した。

所謂労働組合の存在は、三月革命以前には無かつた。其以前に存したものがあつた。其はモスコウ警視總監ズバトフの認可した組合であつたが故に世にズバトフ組合と稱するもので、労働者間に革命的氣分が横溢して來が故に、此氣勢に方向轉換を與ふる爲に、組合の成立を認めて、賃銀、労働條件の改善問題で勞



働者を勞資間の紛争に入らしめた。以て革命運動を阻止せんとした。當時の組合は俱樂部を造る、圖書館を立てる、集會をやると云ふ目覺ましき發展をした。大した勢力は無いにしても、資本案無視の警察的權道に對して、輿論の反對もあつた。斯うして一九〇一年より一九〇五年迄を經過して、彼の赤の日曜日に、レニングラードの組合支部の騒ぎがあつて、直に組合は解散を命ぜられ、地下室潜在を餘義なくされた。此五年間に組合主義の教育を與えた事は勿論であつた。組合運動の初期には組合の効果を餘りに高く評價し過ぎる。此傾向は現代の日本にもある様である。況んや三月革命に乗り出した労働者であるから、絶大の希望と期待とを持つて、革命發程の二十四時間内に、彼の大敵を控へた大戦の眞最中に、公々然と労働組合を成立せしめた。八時間制の確立や又爭議調停法に満足せずして直ちに工場監理へと進んだ。無限の熱心と期待、十月革命へのスローガン、耕地は農民へ、工場は労働者の監理へ、レエニンは勢の指導者、否利

導者であつた。巧に労働者を釣つたのである、利用したのである、一路共產革命へ、左へ左へと進ませた。工場の監理、革命無産者の獨裁制の達成に、労働組合が決定的主役を演じたのは既に説いた。此より新經濟政策決定迄の組合の推移、消長は寔に悲喜劇合併演である。

十月革命は從來の組合主義を葬り去つた。盟休戦法を放棄した。何となれば最早敵が潰滅したからである。盟休戦は無用である許りで無い、参加者に取つて有害である許りで無い、全階級に有害であるからである。何となれば生産系統を紊す、生産減を來すからである。經濟生活機關を痲痺せしむるからである。組合は傳來の唯一の武器たる盟休戦法を捨てた、同時に盟休資金の必要が無くなつた。無産階級の福利増進のために、生産の一途へ突進、そのために組合組織の完成を急いだ。

十月革命は労働者に工場監理權を附與した。事態は進んで共產クーデター



直後、凡ての工業の全然の監理を労働者に與えた。労働組合第一大會は、一九一八年一月舊首都で開かれ、組合は工場監理に止まらず、全露の全經濟活動を支配する國家機關たる可き事を決議して有頂天になつた。

第二大會が一九一九年に開かれて、組合と政府との相互獨立關係即本來の組合傳統を抹殺して、組合は政府機關の一部となつて、工場の經理と併せて労働者の保護とに任ずる事を決議した。形勢を視るに敏なるレエニンは無産者當然の權利として大なる賛意を表明した。

これより外國干涉、内亂、世は荊菰と亂れた。組合は時の必要に應じて軍隊の一部として活動した。食糧徵發軍に、或は内亂の鎮壓に、時として任意に、時として徵發に應じた。多くは都市の工場を出て村落へ向つた。

第三大會は一九二〇年三月、時恰も戰時共產時代の終期に開かれた。反動が

直ぐに來た。労働者動員に對する反對労働組合の工場監理に對する反對の聲が高くなつた。支配權者を排斥した工場は支配人も無く、技師長も無く、凡ての有能事務員が無い。労働者と工場丈では、繰業が直ぐに止まるの外は無かつた。大恐惶の到來は當然の事であつた。組合は大衆を擁し、特權を享有し、名みの優越的地位を占めた、けれども工場の經理は無援孤立。礎と動かすなつた。行詰つた。組合を代表する工場委員と、中央監理の任にある最高經濟會議との間に紛争を生んだ。生産に關する限りは、工場委員の手より之れを政府任命の監理者に移して、經理を一手にせしめる案を共產黨が決定した。組合は勿論反對して見たが、黨が決めた以上泣寝入りで、此時より急轉直下、組合は工場の番人になり下り、衛生だとか、食糧切符の配給だとかの雜務を處理する丈のものとなつた。政府任命者の工場經理も成果を見せずして、經濟恐惶、人心不安は益深度を深めた。此處で共產黨に最始の内訌が起きた。即トロツキとブハーリン



とは、凡ての工業を政府より分離せしめて、獨立のものとして、之れを労働者のソ  
 ヴエツトが經理する、換言すれば、労働組合が製造工業の一手請負と、經濟活動の  
 最高監督をやつて、政府は軍事だ、教育だと言ふ様な事丈をやる事を主張し出し  
 た。レニンとジノヴェフは、國民の八割を占める農民が基本大衆であるから  
 とて之れに反對した。此の論争が三ヶ月間も續いた。

第四大會が一九二一年、新經濟政策決定の後に開かれた。昂奮も醒め、醉も醒  
 めた。熱狂から冷靜へと歸つた。組合は工場の經理を放棄して、労働組合本來  
 の傳統へ復歸し、以て労働者の位置の改善、福利増進を目的とする事に決定した。  
 斯くして革命主役の偉勳者は、其有頂天より再び貧窮に復歸したのである。

第五大會は一九二二年に開かれた。組合は全然政府と獨立別個たる事。政  
 府は雇主、而かも最大の雇主、其關係は労働契約の當事者にして、争議の相手方  
 であると決定した。

露國の労働組合は、産業別の縦斷で、左の二十三種の職業組合が地方的に有つ  
 て、更らに夫々中央委員をモスクワに置き、此委員の代表が更らに全露組合中央  
 委員を構成し、其委員長が凡てを代表して内閣に列し、立法機關に列し、國防會議  
 に列し、國家計畫局、利權局、法制局、其他の重要機關の會議に参加する。現委員長  
 がトムスキイであつて、彼れは共産黨の最高幹部たる政治局にも列して居る。  
 指導的位置に立つ役員は、中央、地方を問はず、凡て共産黨員を以て充てて居る。

業態別に製革、製藥、衛生、鐵道、郵電、金屬、製糖、都市事業、政府吏員、教育、食糧品、陸  
 運、水運、化學、動物産業、印刷、建築、製紙、織物、裁縫、山林農業、鑛山、俳優、美術家、の二十  
 三組合で、現在組合員九百萬人を抱擁して居る。

第五大會が一九二三年に開かれた。階級戦は最早露國に存在せぬから、盟休  
 の許容される場合は、經理方法に間違の有つた場合に限り、組合の眼目は  
 國營企業に於ける盟休を未然に阻止するに在りとした。従て組合機關は労働



者の福利のために聲援を吝まぬが、全階級の福利たる生産の減退はさせぬと云ふ事に決めた。之れを勞資の合理化だと賞讃する者もあるが、或は國家が勞働者搾取をやる結果となるかも知れぬけれども論理的結論を左うは云はぬ、蘇露國は勞働者の國であるから左様な事は皆無だと釋明するのである。

大衆福利の前には、凡ての沈黙、服従を甘受する露國の勞働者は氣質が善良階級意識が強いのであると見る可きであらう。時の経過は狂暴な立廻りを演じた勞働者を善良なる市民と化し了したのである。

盟休戰術を放棄させた代りに、爭議解決の手續を定めた。一工場一組合制を確立した。組合員は収入額の二%を會費として出捐する。雇主は支拂つた賃銀の約十六乃至二十四%を勞働者のための社會保險の掛金、勞働者の俱樂部費及文化費等として支出する義務を負ふのである。

露國勞働組合の消長の梗概は、上述の如しであるが、勞働者の運命は、露國産業

の發達に伴ふものである事は勿論、革命以來既に十年、工業の發達は遅々たるものである。此遅々たる歩みが勞働者の生活改善、向上そのものである。勞働階級の所謂政治的優越權の發動作用なるものは、畢竟露國革命政治家、革命經濟學者の名案に待つ處の單なる經濟振興問題に歸着するのである。

一九二六年の四月英國に石炭坑夫盟休事件が勃發して全國總盟休となつた。當時露紙は、モウ一足の事で無いか、此處で前進を止めては、地下のレニニンに笑はれると諷刺的社説を掲げた。俄然同情金募集が、全露職業組合中央委員會で決定せられて、即日百萬留布の送金となつたが、英國總同盟幹部は之を拒絶した。スルト石炭坑夫同盟が甘受する旨を云つて來たので、英國の資本主義に大打撃を喰はせる爲に、大に友情を發揮して、組合員収入の1%釀金を數ヶ月續けて、所謂赤の金の八百餘萬留布を送つた。或は政治的意味が多かつたかも知れぬ。盟休慘敗の後坑夫組合長クツクは、モスクワに來て、赤の金に表明された友情を



感謝した。英の輿論は、クツクのモスコウ落を、那翁のモスコウ落に比して嘲笑した。彼の労働党内閣時代の赤の手紙と共に、英國民を憤慨させた。輿論は英露斷交を歓迎する迄に傾いた。露國職業組合の對外勢力の一表現として牢記すべき出來事である。

組合員の特權は事業整理の場合に、非組合員の解雇を先きにする事によりて保護され、又新たに就職する場合に非組合に先んずる恩典ある事である。

一昨年以來物價引下政策が冗費節約を標語として、全企業の整理を促進せしめた。淘汰に次ぐに淘汰を以てした。解雇されたものは非組合員であつた。新たに職に就かんとするものは、先以て組合加盟を先決とするが、最少限六ヶ月の雇傭労働の經歷無きものは、組合加盟の資格が無い。此六ヶ月の雇傭労働口を探がしても見付からない。換言すると、永久に就職が出來ぬ事である。斯くして組合員は既得の位置を保護し、就職の獨占をやつて居る。勿論労働法は非

組合員の雇用を妨げぬけれども、今日の露國産業では非組合員に與えらるる餘地が無いのである。一九二六年の調に依ると、組合員にして失職せるもの百六十萬七千三百人、非組員の就職は絶望と云ふべしである。

露國の政治經濟上の諸問題で労働者と稱するのは職業組合員の事であつて、現政府は其強い支持を受けて立つて居る。政府唯一の味方であり、謳歌者である。

社會保險制度で非組合員をも保護する制度であるから、之れが完璧を期すると聲明して居るが、基金の大部分は他に流用し盡した様な風聞もある。

## 露國の新教育

革命が露國民に與えた大なる變化。賞讃す可き施設の中、最も將來に効果を



期待す可きは教育である。國民教育、共產黨教育の二つがある。

共產黨教育は、共產黨員養成教育と政治教育の二つであつて、前者は共產黨員學校、共產黨大學、共產黨師範學校、東洋民族の爲めに、東方革命労働者大學、特に支那の爲めに孫逸仙大學。後者は凡ての團體、工場、自治體、兵營、船舶學校に於ける政治教育即政府政策の説明及指導、内外事情の報導、國際共產の活動報告、産業指導等をやる。共產黨員の多くは此政治教育講師を擔任して文字通り夜を日に繼いで恐ろしい劇務に服して居る。

共產黨は中年者の入黨を殆ど許容せぬと云つて良い。小供の時から共產精神で育つて來た者を嚴撰して、眞に無産者獨裁政治の指導者たる資格ある者丈を入黨せしむる。其爲めに、前衛兒童、共產青年黨員候補者の三階段を経て、始めて黨員となる順序で、此自然增收で黨員を獲る。黨中の急先鋒者丈けが黨を指導し、而して小數の共產黨員が大衆國民を指導するのだから、黨員の資格を、献身的

熱狂的に求むるのも當然である。此三階段は、夫々教育を施し、試験を課し、人物検査を爲して、其内の極めて小數が黨員に拔擢せられる。入黨する者は得意となり、排斥せられたものは不名譽とする行き方である。

國民教育制度なるものは、革命前の露國には存しなかつたと謂ふ可きであらう。國民の大多數は文盲であつた。革命後レニニンが文盲絶滅を叫んで、多くの夜學校を開いた、今日でもやりつつある。普通教育制が強制義務とは、未だかつて居ない、教師と費用が足らぬからである。纔にレニングラードに、昨年かから實施せられたと聞く。労働學校と稱するものが即普通教育である。一昨年十二月の國勢調査によると、全國民の五六%は文盲である。

大學、高等學校、専門學校の有る事は他國と變らないが、労働者のために労働大學が有つて、卒業生は高等學校へ進める、即労働者から社會各般の指導者を作らうとする準備教育である。凡ての工場に職工徒弟學校がある、之れが維持は工



場の義務であつて、經營は職業組合がやる、就學も亦職工子弟の義務である。

教育方針は云ふ迄も無く全然共產主義の教育である。歴史を排し、哲學を排し、倫理を排し、宗教を排し、忠孝節義凡ての道義觀念と習慣を排して、一意的唯物論の觀點から説くのである。現代吾人生活の殆ど全部を爲す、金錢授受の行爲を卑み、金儲行爲を排する。私財所有を排する。貯金を罪惡視して、盜賊行爲を視する。營利取引や、私人企業や、保護を受けないと同時に、當事者は公權を享有せぬと教ふる。萬人社會の爲めに働け、社會の爲めに働く者丈けがよい地位を占め得ると説く。實利慾を排して權勢慾へ、個人的利己主義や、家族主義を排して、社會の一單位として、社會に奉ずる恆久的な愛社會念慮へ、國民生活と心理とを向けしめ様とする。此共產主義一流の教育が産み出すものと、現代露國が目前に要求する處と一致するや否や。露國は十年、二十年後には大に變つたものになるであらう。新たに生れ出る露國々民生活の本質は、抑もどんなもので

あらうか。無産者獨裁の下に、教育は權利では無く、全く國家の附與するものであるとの見解で、自然國家の必要と認むるもの丈けに撰擇附與するものであるとして居る。故に大學の座席は九割が労働者及農民の子弟に與えられて、僅かに一割が舊の支配者、富者階級、智識階級、私營業者等に與えられた。彼等は此撰擇に洩れる運命の者であるからである。實際に於ては、舊支配階級に屬したものの子弟は、全く大學の門に入る事を許されなかつた。労働者から有能者を急造し様としたが、猫の子に不具者が多いと言ふ露國の俚言の通りに、急造労働者子弟の成績が甚だ悪く、大學教育低下の批難が、各所から起つたので、昨年から大學坐席の五割迄を、舊支配者階級の子弟に譲つたが、労働者子弟の排斥を受けて、在學が事實出来ぬと云ふ様に聞いた。頂度我維新前サムライ獨裁時代に、昌平黌へ入學を許されぬ庶民の不平の様なもの、露國の所謂智識階級から聞かされるのである。革命前には商人、農民無論労働者の子弟は、絶対に大學へ入る



を許されなかつたに比すると、革命後の改善は眞に新興露國の當然なる制度で裏長屋からも、僻村からも、有爲の青年が出て、登龍門をくぐり得る事となつたのは大進歩、大變革であつて、將來の露國は此れ等青年の双肩に在るのである。

征服露國は多數の小民族を凡て同化策で教育した。従て露語が官用語、公用語であつて、大露人が文化指導の中心であつたが、革命後民族自決主義で、之れ等の小民族が自國語を以て本位とするに到つたので、到る處に悲喜劇が演ぜられる。例せばウクライナに入ると、ウクライナ語で驛名が書かれてあり、公文書は全部ウクライナ語でなければ通用せぬ。ウクライナ語を忘れたハイカラ者は、官公吏の職に就けず、何の手續も自ら出来ぬと云ふ有様である。其他の小民族亦大同小異で、小民族は今後も難問の一に數えられるとおもふ。

社會的教育、團體的教育を小供の時から與えて、眞に社會主義的人間を造出するためには、小供を國有にして、國家が教育の全部を施すを可とする議論もあつ

たと云ふが、金が無くて出来ずに終つた。然し文部省の下に、實驗所が五六ある。露國を社會主義的に改造する教育、世界大衆を指導して世界無産者革命を達成せしむる國際化教育、此の大教育機關網を共產黨の手に完全に握つて、一億五千萬人に講説して居る處に偉大なる力を認めぬ譯にゆかぬ。

現時露國に於ける、圖書の出版、印行の旺盛も想像外であるが、之を目して單に宣傳として輕視するのが邦人の弊である。戦後獨逸が精神的武装の必要を強調して、有用な書物の印行に力を傾注して居るのは、國民的統一進歩に貢献する爲めである。露國に於ても同様であつて、先以て國民の共産的、精神的武装の必要を認むるからである。着々と其効果を收めて居る。日本に於ける全集乃至圓本の流行と同日に談す可きで無い。又活動映畫にしても、米國が國民の社會教育に統一の指導を映畫を通して爲すと同様に、毎日の出来事の映畫を加へて、統一的に國家政策へ觀客を導かうとする。以て政治教育を與え、社會教育を與



えて、革命文化を達成せんとする。之れ亦娛樂至上の我映畫の如きで無い。小供用の繪入本にしても、奇怪な傳説物を禁して、自然科學を教え、生産の意義を教え、共同生活の意義を教えるもの丈を印行して居る。凡てに統一指導の跡が見える。

統一的に國民教化の全部を握つて、共產精神の鼓吹をやつて居る。生れ出つるものの特性を輕視する事は出来ない。

出版、印行事業に於て、露國、獨逸、支那を對比して見ると、多少の興味を禁じ得ない。圓本濫讀の夢をむさぼる、大平逸民然たるものは幸福な現下の日本人であらう。出版業者の廣告の儘に動くのである。露支兩國では、之れが眞に國民精神の糧で、強烈な時代精神の喝を醫するものである、無關心に之れを視る事が出来ない。而して其實際的普及に於て、露國の本は恐ろしく高價であるに反して、支那の本は恐ろしく安い。露國は指導役をつとめるが、實行は支那に及ばない。

支那の出版界は實に華を去つて實を採つて居る事に於てまさに獨逸と雁行して居る。

### 幹部、反幹部争

突如として聯合通信は反幹部派の都落を報した。紛争を續けて來た過去八年の内訌の總決算だと云ふ事である。兩者の主張、それは露國々民の福利の上から、社會主義實現の上から、共產黨の面目主張の上から色々あらうが、詳しい事はモスコウ住の平露人にも判るまい、況んや筆者に於ておやである。

レニンと對立したトロツキが反幹部派の首領である。一九二三年に物價政策で同志四十六人を叫合して、共產黨は露國を破産に頻せしむるものであると、公々然絶叫した。一九二五年にトロツキは、工業至上主義即彼の論理的歸結たる、露國をして可成早く資本主義爛熟時代の過程を経過せしめて、一躍して



社會主義への順路を進まうと云ふ急進説や、貧農本位主張のジノエフ案が無慘に一蹴されて、スターリン派の重農主義即農産獎勵を第一義とする、農民よ富めよの政策が勝を占めた。此の決定は抑も何を物語るかと云ふに、トロツキは社會主義實現、世界革命への急進説であり、スターリンは漸進説であつて此の急進、漸進の相違が重工か重農かになつたのである。故に漸進派は列國との妥協國內の經濟化、富農獎勵、英國の坑夫盟休援助、支那國民黨の支持等の政策を支持し急進派は之れに反對した。然るに急進派が云ふ様にスターリン統治は失政が多くて成績が甚だ舉らない、遂に一九二六年ジノエフ派がトロツキの下に聯盟して、幹部派即スターリン派に攻勢を向けるに到つた。遂に之れが昂して黨規違反となつた。重なる黨員三十餘名、其他無名黨員一萬四千人を除名したと云ふ事である。スターリン統治下の二ヶ年の政績は失態の上の失態だとジノエフの列擧したのは對外策に於て、(一)支那革命の頓挫、(二)英國労働

組合と提携の失態、(三)英露斷交、(四)佛露國交の危機、(五)舊債承認行動、(六)國際共產の分裂、(七)共產黨の右傾等で、又對内問題では、(一)労働者生活改善の遲滞、(二)黨機關の決定政策に對する労働者の冷淡、(三)富農の擡頭、(四)物價引下の不成效、(五)失業者の増加、(六)食糧品供給の不圓滑、(七)成金、富農及新官僚の擡頭等である。斯うして國民生活の差等は大となり深くなる許りである。共產黨以外に勢力の集中が出来る傾向が顯著となつて來た。之れに反して労働者の賃銀は低く、其實生活は改善されないと云ふのである。要するに富農を壓迫して、重工主義の政策に還るのが社會主義への順路だ。同時に全政策の轉換を必要とすると云ふに在る。此論争から吾人は、露國の真相を捕捉して見度いのである。反幹部派はモスコの賃銀が一九二五年に二十九留布であつたが、二七年に三十乃至三十三留、即労働者の實収入は三年前と變らないと云ふに對し、幹部派の出した數字は一九一三年が三三、二二留布で二二年が一四、七〇、留二



三年が二二、二〇留、二四年が二四、一三留、二五年が二七、六七留、二六年が二九、六〇留、二七年が三八、五一留布で、結局兩者の數字は水掛論だが改善の遅々たるは事實らしい。労働者の樂園が急に出来るもので無いのである。同時に物價指數を見ると(中央統計局の)一九一三年を一〇〇として

一九二七年一月一日 消費組合 國營商店

六月一日

二二七

一八六

一八四

でトロツキ一派の云ふ處の、一九二七年の實收は一九二五年と同額であると思はれる。

工業製品の缺乏は甚敷いらしい、統計局は苦しい説明を敢てして居る。一九二七年の十二月は前年の同月よりも三、六%の製産増加であるが、需要が一二%の増加であるから、今年の正月には、八四%の製品不足であると云ふ。金を持って

居ても慾い物が買へぬ、農民は四億五千萬留布を抱き込んで、必需品が買へぬのを嘆じて居ると云ふ事である。製造品の飢饉は一九二四年以來の重要な問題である。之れ即同國々有工業の不成績と、國營貿易の偏破とを現實に語るものであらねばならぬ。歳入の不足が二億留布で、紙幣の濫發が餘儀なき實際の結果であるらしい。紙幣の下落が農村の問題となつて、農村の紊亂と穀産買上に影響して來たと云ふ。穀産の輸出が順調に行かぬと、合理化も、工業化も豫定の進行が出来ぬ。露國の國民經濟、文化の進退は一に穀産輸出の消長に因るからである。此等は國民經濟、即新政治の根本たる農民對労働者、都市對農村經濟干係を悪化し同時に政府對労働者、政府對農民干係を疎隔するものであると云ふ。國營商業、商店消費組合で賣出す食糧品に腐敗品があつたり、胡麻化物があつたり、粗製品があつたり、小麥の小賣値が戦前の二倍もしたりすると云ふ。仍て見ると國營企業、監理の技術が依然として發達しないらしい。



國營商店に冗費が多い、其結果市民は半ばを私商より買ふ結果となつたり、物價政策に柔順なるために不得已粗製品を作つて安く賣り出せば、買控の結果となつたり、又人爲的に需要減退をやつたりすると云ふ。

政府及國營企業に集中した新官僚は冗員、冗費は云ふ迄も無く、無際限の報告作製や、二重、三重の調査をやる、此れ等を切詰めれば年額十五億の節約が可能で、實際に差支ないと云ふ。

最近の露國は主義的政策でも、思想上の苦悶でも無く、全く國民の慾求に如何に應ずるか、の實際問題であるらしい。製造品の飢饉、之れは國營にした貿易が國民の必需に即せずして、財政の見地から決定せられる以上、どうしても自國工業の急速なる開發に待たねばならぬ。トロツキーの持論たる各種工業を急速に發達せしめ、以て農村の必需に應せしめねばならぬ、否らずんば被征服、被壓民族と何等擇ふ處がない、實質的に見れば無産者獨裁は無意味になると云つた

のは、今日を洞見しての達識であつた様だ。二百萬の失業者が、都市にウロ／＼して居るに反して、十億布度の穀産が富農の手に握られて居ては如何な共產黨も動きが取れぬ。國民衛生主義から財政主義に移つた、酒類專賣は前年の每人〇六壘當りが、昨年は急に四、三壘に増加されて、ウオツカ製造が唯一顯著な工業である様ではならぬと云ふ、トロツキーの焦燥も無理では無い。詮しつめた處は、穀産増加政策のために、富農を重視した結果、新富農の穀産賣控が政府政策の行詰りとなつた。富農壓迫が急務で、課税と穀價の引下とで得る收入を工業化に向け様とする政策を、此場合の唯一無二の轉換策だとするのが、反幹部派の主張らしい。

トロツキーは辨論の雄、達識の士である。スターリンは黙々として、乾分の養成に、要所に部下の配置を怠らぬ。政府を、職業組合を、國際共產を自家郎黨を以て固めた、スターリンと、乾分の無い、政治家素質の少い、トロツキーの争は、纏て超



政策、權勢の争となつて幹部派の勝利となつた。ト派を賛する黨員も尠からざるにせよ、過渡期の現共産黨機關は唯一の壓迫を以て權勢維持の方法とする。非黨員のみならず黨員に對しても亦然りて、投票も主張も良心の儘にする事を恐れる情態の下の黨員である。反幹部派が思ふ儘に云はしめよ否らずんば、吾等の全部を捕縛せよと詰め寄せたのは悲愴でなくて何である。

筆者に云はしむれば言論機關の缺如である。反幹部派は未だ國民の前に所信を披歴したのでは無い。然るにスターリンに云はしむれば露國には革命派と反革命派の二つより外に有り様がない。獨裁の達成には、嚴格なる規律が必要であり、規律は獨裁でも無ければ専制でもない、大衆基本の任意行動である、故に規律に反するものは階級意識の缺けるものである。トロツキ派が強い活動を続けければ、反革命となつて投獄せられ、沈黙すれば監視せられ、壓迫せられる。トロツキに云はすれば黨の除藉も、流刑も、幹部派の論理的歸結である。

共産黨の急先鋒たる錚々の士の多くを逐つて、労働者の多數を抱擁して行けば、落ち付く先きは判つて居ると云ふのである。トロツキ時利あらずして、トルキスタンの片田舎、モスコウより十四日旅のヴェルヌイに、棉花組合の組長となつて、全くの田夫野人となつた。彼はレニンの同僚、十月クーデターの發頭人、第一次外相、軍相、利權局長、國際共産中央委員、大文豪、大雄辯家である。彼れは斷乎として黨への復歸を卻けたと云ふ。毅然として立つた。憤々者流ではない、權勢を懼れず、威武に屈せぬ、越格の風が見える。ジノヴェフとカーメネフは、多くの歡迎の辭を浴びて再び黨へ復歸した。彼れ等は降參者であるが、トロツキを黨首とする新黨組織計畫の裏切を、正義化し様と高唱して居る。何としても、政治家の素質を備えたるはスターリンである。彼れの言を藉りて云へば、最左翼派が此運命に逢着した。農民壓迫派が敗けて、穩健派が政權を把握して居るから、西歐各國の誤解も消え、公債成立の見込も立つたと云ふ事下



ある。幹部派の政策が、レニン線上を驀進するもので、国内では社会主義の建設、国外では世界革命を促進するものである。部分的に多少の不成績があつても全體としては一步一步、確固たる歩武を占めつつあると云ふ。

由來共産黨の政策決定は、筆者に云はしむれば主義の強調よりも所謂迎合主義である事、資本主義國の政黨と大差が無い。知らぬ間に國民の要望を又反對派の主張を採つて居る。現に今日の共産黨の採つて居る政策は大抵メンセビキの掲げたものであつた。政權を離さじとする結果は主義一點張りで行き得ぬ政策を變えて行くのである。迎合して行くのである。知らず反幹部派の主張が幹部派に採用されて以て他山の石となるのも遠からざる事であるかも知れぬ。近着のブラウダ紙によると、農民は春迄賣控えのスローガンを振り廻はして政府の買附に對抗して居ると云ふ。そこで政府は一九二一年以來棟梁に束ねた刑法の條文を復活して適法を以て對應すると威嚇して居ると云ふ。政府

の穀産買附が順調に行かず、都會の食糧配給にも支障を及したと云ふは眞實らしい。自然富農壓迫は反幹部ならで幹部派がやつて居ると見るべきであらう。

### 革命十週年

露國革命十年紀念に、各國の同情者の招待大會が昨年十一月露國で催され、同時に全國各地に御祭騒を演つた。當時露國政府が呈示した處の數字を擧げて見るのは現状を知るに至便なりと信ずる。

聯邦中央執行委員八二七人の職業別を示すと、労働者出身四三・六%、農民出身者二一・三%、精神労働者出身三五・一%であり、又五大共和國に於ける都市執行委員七二・二三五人の職業別を示すと、労働者出身四六・六%、農民出身四九%、學生、軍人、主婦等一七・五%、精神労働者三一%であり、又工場監理者の七四・八%が労働者出身、又トラスト及シンヂケート重役の五〇%が労働者出身、又モスコウの保健



省勤務者中三萬六千人の男女は皆労働者出身であり、其他の企業并に社會施設勤務者の三割は悉く労働者出身である。共産黨員百二十萬人の内労働者出身五五三%

此のルイコフの説明は即現露國が労働者に依つて統治されて居り、労働者が支配階級であると云ふ實質的説明の材料である。

失業者數は職業組合に加盟せる者丈けで、一九二四年八十八萬三千人、二十五年百八萬五千人、二十六年百六萬七千人ある。近年工業の大發展に伴つて昨年度には五十萬人の労働者を收容し、今年更に十五萬人を收容し得ると云ふ事である。

國家歳入で收得した剩餘利益の中主に鑛工業に投ぜられた資金は一九二五年度三億八千五百萬留布、二六年度八億一千萬留布、二七年度十億留布、本年度十一億九千萬留布、此外に電化設備二億八千萬留布以上合計三十六億六千五百萬

留布である。

一般經濟。革命後内亂、飢饉で發達を阻止せられたため、再建着手の出來たのは、僅かに五年前であつた。故に五ヶ年間の業績が今日を爲したものであるが、大戰前の一九一三年度の生産を標準にすると、基礎的大工業生産は一九二一年には僅かに二五%に過ぎなかつたが、一九二七年には一一二九%を示し、石炭産高は二四%から一二〇%に増加。棉花は一一二%、石油は一二〇%に増加した。戰前の域に到達しないのは鐵工業丈けで、鉄鐵は八二・三%、製鋼は八五・二%である。

此説明は新經濟政策の目標が、生産の大戦前への恢復であつたが、既に其目的を達して、より以上の發達を遂げたと云ふ大自慢である。但し以上は國有工業の中の基礎的工業に就ての事である。露國は家庭工業が全生産の四割を占めるから此方面の復舊は如何か説明が無い。



農業は一九二一年には一九一三年の五〇％に過ぎなかつたが、一九二七年には一〇八・二％に増加した。家畜の數も一九一三年の八千四百萬頭が、一九二七年に八千八百萬頭に増加した。

此は一方は労働者、一方は農民の唇齒輔車的經濟關係が理想的に行つて居ると云ふ説明である。

鐵道は一九一三年の三萬九千哩から、一九二七年の五萬一千哩に延長した。

分配方面は、小賣及卸賣組合の發達著敷いものがある。大工業製品の九〇％が此組合の手で捌かれた。全商業取引の八四・五％が此等施設の手を経るもので私商人の手を経るものは、一五・五％で私商業撲滅策の成效を示すに足ると云ふのである。消費組合の發達は一九二五年度には前年度の九〇％、二十六年には更に八四・二％、二七年度には更に四二％の取扱高増加であり、卸賣組合取扱高は一九二七年度に十九億留布に上つて居る。

農業では全耕地の九六％が農民に分割され、四％が國營耕地である。獨立農が二千萬戸あつて、之れが集合農獎勵と相反する傾向を持つて居るから、農民間に組合組織を獎勵して傳統的孤立を矯正しつつある。此組合が既に六萬六千出來て七百萬戸即約三分の一が此れに加入して居る。

之れは農村にも集合制が確實に發達しつつあつて、社會主義完成に一步一步近づきつつあると云ふ事を立證するのである。

賃銀を見ると、金錢收入丈けでも戦前の一一・六九％に高まつて居り、其他の物質利益を加算すると一三・〇乃至一四・〇％に當つて居る。最近四ヶ年間に於ける賃銀増加率は、一九一三年を標準にして八二・六％から一一・六九％に増加したが、資本主義國に於て賃銀の上つた國があるかと大見得を切つて居る。

**五年間計畫** 今後の五ヶ年間に、一般經濟は戦前の二三・〇％に達せしめる事が出來、賃銀は労働時間を減少しても一四・〇乃至一五・〇％に引上げる事が可能



である。之れ労働者の國たる露國に於ては、賃銀は搾取者の決定するものに非ずして、此國の一般經濟より割出して決定するものであるからであると効能自慢を述べて居る。兎も角露國が世評以上に復舊したのは事實である。

上述の政府説明は其盡に受取れば露國は實に労働者の樂園である。其處に反幹部派が列擧する様な缺陷の存在する餘地が無い事になるが火の無い處に煙が上らぬと同様に斯る缺陷は隨處に見出さるるであらうと思ふ。殊にスラブ人の手前味噌氣質は、外國人に對しては無意識に何でも良く見せ様とする、御客様には悪い處を見せぬ様に努むる。此れ等數字に何等の修飾は無いか。花を隔つる霞の様な修飾が加えられてあらぬか。製品の欲乏や輸出不振の如きは、夫れ自體此報告を裏切るもので無いか。凡ての産業政策を研究決定する國家計畫局が古役人の隠居所となつて、實質を失つて居るを思ひ合はせると、露國の産業制度も、合理化も誇稱する程によく運ばれて居ないと見る可きであらう。

### 對外政策

共產主義、社會主義國家を露國に建設すると同時に、全世界の共產主義革命を建國の理想とする露國、其對外政策が特別な、奇抜なものであるは當然である。露國の社會、經濟、政治上の概要は述べ來つた處で模糊として其輪廓を見る事が出来ると思ふ。其處で當然二の疑問に接する。一は露國の様な國土に、共產主義國の建設が可能乎と云ふ事。二は諸外國が共產主義化せぬ場合に、斯程に經濟の上に、文化の後に後退せる露國で、一時的なり共、無産者獨裁政治の支持が可能であらう乎と云ふ事。此二問を露國の共產主義者が眞實に可能と信じたや否や。

マルクスは共產主義社會は最も古い國、最も進歩發達せる國、多數國民が賃銀稼で、即労働階級である國に最初に出現するものとした。露國のボルセビキは



マルクスの説と矛盾せぬ考を持つて居る。勿論レニン及其徒は共産主義者が政權を把握したのは、全く偶然の事で、國情の變態、非常時に、巧妙な戦法で達成せられたる事をよく承知して居る。ボルセビキの第一義とする處は、活動的な、組織的な、嚴律な、小數者を創造するに在る。此小數者が餘の大衆に對立して、指導の位置に立つのである。共産主義の城郭を露國に建設した以上、此城頭より諸外國に光被せしめんとする。即諸外國の小數者を支持後授せんとするのである。物質的に露國の社會組織の更生を企つるに止まらず、全國民の心理を更生せしめんとする。此の爲めに富者の言論機關、富者の科學、美術、教育、及家族、宗教等に對する富者階級の傳統の全部を破壊して、之に代ゆるに共産主義の新聞雜誌、科學、美術特に共産主義に基く教育を以つてせんとするに在る。無産階級獨裁政治の下に於ては、斯れ等の諸大問題も、絶對權能を以て容易に解決せられ、何等の困難を見ないのである。寧ろ經濟の變更よりも易々たりとする處であ

る。此れがボルセビキの説く處である。

露國丈けが共産主義で行こうとする事は不可能だ。これには西歐各國の同主義加盟を必要とする。レニンは、聊か我田引水に考えた、即ち西歐の資本主義の破綻は遠からずと信じた。全世界に革命氣分の横溢せると信じた。けれども、諸外國の労働者が決定的自覺と、組織を缺如せるが爲めに、此破綻を利導する事が出来ぬ。仍て露國共産黨から必要な誘導素を供給するの外は無いとしたり。大露國の覇權者が可能とする物的援助、經驗、資金、國際的勢力を惜しまず供給する事とした。露國內外に於ける共産黨員の活動と、モスコウ中心の存在と、諸外國所在各種の同主義組織の活動とに依つて、世界革命は可能性を帯ぶるか、の如く見えた。乍然斯る大事業は世情の安定に向つた時に達成は六ヶ敷い。革命直後に於ては、共産革命が直ちに諸外國殊に交戦各國に破及し、所在に共産主義者が政權を把握するに至るものとの見込を以て、對外策を案出した。レニ



ニンは各國に革命の烽火を擧ぐ可く全世界の労働者に飛撒した。露國は富者國間に介在する唯一の無産者萬能國で、全世界の富者階級に抗立する全世界無産者軍の最高指揮官であつた。一九二一年迄は露國の對外策と國際宣傳とは不可離であつた。先天的な有力な宣傳家たる、ラコウスキ、ヨツフェ、リトビノフ、ラデツク、パウロウイツチ等、何れも露人にあらざる者が、外務省に入つて責任ある椅子に就いた。其使命は申迄も無いのである。トロツキが第一次外相となり、チチエリンが後任となつても、同敷世界革命に對する蘇聯邦の重要性を繰返すのである。

レエニンとカーメネフの援助で一九一九年三月ハンガリーにクーデターが計畫された。露國で仕組んだものと云ふ事である。プレストリトフスク講和協約を以て獨逸國の國情に反する宣傳を爲さざる可しと約束せる事は、國際共産國の實現の爲めに不便、不可能事とした。

第二インターナショナル(非共産黨)の下に西歐各國労働社會運動が統一されて居るが、露國共産黨は第三インターナショナルをモスクワに創設した。即國際共産黨である。國際ソヴェット共和國建設が目的で、政權獲得の方策及獲得後の對策を指導し、世界革命を論議する中央機關である。共産黨と蘇政府と、國際共産黨との不可分を高調して、一九一九年一月第一回會議を莫市に開催して各國の労働者を招いた。政府を代表してレエニン、赤軍を代表して、トロツキ、國際共産黨を代表して、ジノビエフが署名して居る。此會議で労働階級の福利増進を唯一目的とする世界唯一の組織が共産黨である事を承認し、全世界共産主義組織の聯盟たる事を併せて承認した。従て共産黨の指揮に従ふ事恰も蘇政府と同様である。各國に共産黨を扶殖して、共産網を張るために、労働及社會運動を、従來の指導者の手より、自家の掌裡に收めんとした。活動をよりよく効果あらしむるために、各國語の印刷、宣傳家の養成、語學の修得



其他甚深の注意を拂つて居る。

露國革命と同一歩調を以て、平和論者、戦争疲れの兵士、水兵、労働者の盟休、捕虜の教唆等で、交戦各國に革命を期待した。獨逸、ハンガリー、フィンランドの革命が夫れであるが、此手段で歐洲征服は見事失敗に歸した。

ベルサイユ條約で、民族自決思想が高調されると、歐洲以外に亞細亞で、國民意識の再生に衝動を覚え、モスコウは一種崇拜的靈地となつた。故に近東に於ける外交官と、國際共產は益々密接な關係に入つた。條約協定及び利權何れも共產黨の戰略的意味を持つに到つた。

蘇政府は、世界無産者革命の本部であり、赤軍の目的は此處に在りとした。勿論積極的、獨裁的であつた。翌年七月第二大會で愈其基礎を固めた。此間共產政府は、露國の經濟力を枯渇せしめて、一九二一年に入り遂に全破綻、行詰を演出した。對外政策も國際共產も失敗の一語に盡きた。各國の革命勃發の期待は

見事に裏切られた。對内問題が危機に逼つたが故に、何を措いても自國內で先づ蘇政府支持に全力を傾注せざるを得なんだ。

新經濟政策が對外策の變更を伴ふは當然で露國經濟力復舊の爲めに、利權政策を案出した。各國と通商修好に入つた。政府と國際共產とは全く別箇のものなりとの釋明を加ふるの必要を認めた。乍然露國內に於て共產市場の開拓を爲すが政府で、國外市場開拓を爲すが國際共產である事に變りが無く、此兩者を兩手に握つて居るのが共產黨である。締盟國と親善干係を促進する任務の外交官と、第三インターナショナルの派遣員とは兩立し難いものである。到る處に此悩みが繰返さるる。獨逸の共產細胞の暴動企畫。英國の赤の手紙事件。北京の内亂計畫書事件。昨年の在倫敦露國通商代表の家宅搜索事件がそれである。

國際關係の變化に伴つて今や英國、極東、印度が國際共產の狙ふ處である。殊



に歐洲の労働者は、從來の指導者を信任して、其所屬機關を支持するに到つたが故に、國際共產は、歐洲の労働組合及社會主義者機關を目標とするの徒勞なるを覺つた。自然銳鋒は支那に向けられた。或は近く印度へ指向けられるかも知れぬ。

一昨年、英國石炭労働者盟休援助には、露國労働組合より實に八百萬留布を送つた。英國の小數者運動は漸次顯著となつて來た。労働組合へ喰ひ入つて、現在の指導者の手より指導權を奪つて、内部より閥聲を擧げんとするものである。露國は實に英國を資本主義帝國主義の牙城として、目の上の瘤として居るのである。英國もさるもので、印度を擾亂に陥る前に斷交をやつた。併せて内政干涉の根を斷つたのである。隱謀と敵對行爲を爲すを遠慮せば、英國の全外交政策を鼓吹せる、自由の精神及好意に於て露國を歓迎すべしと云ふのは恐らくマンチエスター派も賛する處であらう。

今の共產黨内には、世界革命達成に、漸進派と急進派とがあつて、前者が幹部派であり、後者が反幹部派である。幹部派は英國の石炭坑夫盟休と、支那の革命と露國の存在とを、世界革命の三大支柱と見たが、見損ひであつた。乍然英國に對する攻勢と、印度、支那に對する援助指導はやめぬのである。

支那は民國革命で、秦始皇帝以來二千二百餘年の帝王政治を打倒した。今や民族解放運動國民前進運動となつて、南支一帯に横行活動を續けて居る。革命の權化孫逸仙は、民國革命に成効した、主張する處は三民主義である。ヨツフエ孫逸仙の交渉で之れに共產主義を加へて、露國國際共產と握手し、中俄聯盟條約を成立させた。露國國際共產より見れば、既成政黨の左傾派と共同戦を張り、後に共產黨獨りで政權を把握し、絶對專制に移らんとするのである。即ち先づブルジョア民主主義革命の完全なる勝利を得させて、然る後に之れを社會主義革命の軌道へ移す事、恰も露國ボルセビキ革命の成効の道程を行かしめんとする



のである。國民黨と提携したのは此の故であつた。兎も角支那の無産階級の權威が何となく高まつた事と、土着の有産階級が革命の衝動に對して戰慄せる様の案外に乘じ易きを見せた。大衆運動の力で七十年間英國が占據した、長江を奪廻した。大衆の力それは秦、隨、元、清の何れをも亡ぼした。之れを逆使するものは亡ぶのである。支那共產黨の組織活動の上に、農民解放、耕地革命の上に、農民自衛團組織の上に、國際共產の巧妙なる指導と、戦法が吹き込まれる。漢口では一時的でも、無産者獨裁の政治をやつた。廣東では共產黨独自のクーデターをやつた。一方に軍閥は權勢の爭覇、地盤の爭奪に妄進して居る。大衆逆行である、其永續性は略想像がつく。

支那は古來卓越せる心的教理を有する。新來のレニン、マルクスの物的教理との諧調に依つて、眞に新文化が華を附けるかも知れぬ。遠き將來は兎もあれ昨の支那、今の支那は露國々際共產との關係が深く密なものがある。國民黨と

の絶縁は一時的にも存在する以上、支那共產黨は潜在運動となつて他日に擡頭するであらうか否か。

### 露國を顧る

二月革命の原因は、對獨戰の不成効、失望的連敗、此戰の結果として、獲るもの絶無なる事、同時に經濟生活の破壊であつた。革命煽動に痲痺した兵士、水兵と都市労働者が決定的役割を演じた。此の場合、聯合國たる義務を遂行して、決定的大勝利へ、而して凡ての對内問題を、決勝後に定めんとした、臨時政府の方策に對して、戰に飽いた、平和喝望、經濟上、政治上諸問題の即刻解決を要望する大衆の力が強かつた。ボルセビキの煽動が益々有効となつた。偶々コルニロフ將軍の亂が十月革命の直接の原因となつて、兵士、水兵が直ぐ革命軍に投じた。直ちに共產革命家の有効な手先となつた。獨逸、其他歐州各國では、労働者は政治問



題に熟して居る。経験がある、規律がある、組織がある。露國では公的生活に慣れて居らぬ。革命家の云ふが儘に、**ボルセビキクーデター**は所期の目的を達した。政治組織の變更は、擧國民の翼ふ處であつた。政治革命の外に、耕地革命がより強い力を持つた、小民族の自決運動、地方政府の獨立運動、共に革命の經緯を紛糾せしめた。何れの革命も破壊を伴ふが、二月革命後の事態は、層一層破壊を助長した。眞に露國のために、**スラブ文化**のために、悲惨事であつた。**ボルセビキ**は好作戦家であり、軍師であつた。如何なる場合にも事態の利導を忘れぬ。既に反動時代に入つて、白軍が蜂起した。外國干渉が起つた。農民は之れを反革命視した。即嫌惡する舊帝政、官僚制度の復活と速斷した。斯の如き傾向の促進助長が**ボルセビキ**の特長であつた。果然、農民は多く赤軍に味方した。斯くして露國は一路共產主義へ邁進するの外は無かつた。

十九世紀末の露國官僚の擡頭は、中央集權の絶大權力。卓絶無比の警察政治

を以て、新政治思想、國民解放、個人解放の政治運動に臨んだ。幾多の誤つた對外政策を生んだ。大露國の運命が氣まぐれ官僚の双肩に在つた。國民とは、殺交渉のものであつた。所詮露國は近世的國家で無かつた。これで以て世界大戰へ乗り出した。破綻は當然であつた。**ボルセビキ**が舊制度を全く顛覆した時に、獨裁の假面の下に執つた手段は凡て極端そのものであつた。新設した、警察は帝政時代の警察制度そのものであつた。中央絶對集權の官僚政治そのものであつた。唯一の國有政策。それは共產黨の完全監理下に廣汎な官僚の創設では無いが、黨は政權嚙付のためには如何なる犠牲を拂ふ事も躊躇せぬものでは無いが。

一九一七年乃至二十一年は共產黨が思ふ儘に、政治、社會上の問題を取扱つた。**マルクス**の教えた儘に、**レニン**が考付いた儘に、有力な黨員が論議せる儘に實施した。無産者獨裁の特長は、地上のあらゆる方面に互つて、思ひ立つた事が實



施し得るにあると云ふ。然り、三年間の實驗、露國の大國土、一億五千萬の國民は、一大實驗室であつた。其實験の結果や如何、世界の進運に何物を寄與せしや、世界の勞働者に希望を與えたりや。社會、經濟、政治上の問題のみならず、國民の心理をも變え得ると云ふ共産的信仰は今や如何。大衆に對する小數者の專制を容認した。階級專制を容認した。專制階級の絶對權能、之れは如何にも吾人が見て、非立憲では無いか。國民心理を更生する事や、共産的教養に就かしむる事が出来るか、出来ぬか。凡ての傳統的教養を、ブルジョア再生として捨て去つた。就學を制減した。教育程度を低下せしめた。斯くして何物が生れ来る可きや。國際化教養や、階級化やに對しては既に反對の聲がある。文學も藝術も露國固有の傳統への復歸が叫ばれる。戰時共産時代の研究より抑も何を掴み出すべきや。

新經濟政策、それは經濟事實に抗し得ぬ共産黨の屈伏である。乍然政治問題

と同様に、經濟界を共産黨の絶對管理下に措くものである。諸外國との接觸で、内外の幻影を一掃したのは、特記するに足る。露國民は諸外國の不安及革命達成を自國同様に考へた。諸外國民は、勞働者の樂園を思ひ浮べた。兩者共に幻影であつた。新經濟政策は、小工業、農業、國內商業一部の解放に過ぎぬ。大工業は國家の監理下に在り、外國貿易は國營であり、外貨吸收のために絶對必要である。私工業、私商業は重税を課せられ、國營商業は財政上の必要より、大利益を收めんとする。結局政府、赤軍、國際共産の支持上、國民經濟の生産増加が絶對必要である。凡ての政策が此點に集中せらる可きである。對露通商は如何、購買力の缺乏を如何せん。購買力の増加のためには現制度は不便である。外國貿易の獨占を解放するを要する。資本主義國の對露接近は如何。チチエリンの言を藉りて云へば、對英共産宣傳停止を要求する、カーゾン卿に答へて、宣傳を停止する時共産黨は既に共産黨に非ずだ。露國の對資本主義國態度はこれである。



協調は至難と見る可きで無いか。對支那共產黨援助の無効失敗を説いて宣傳停止を忠告する者もある。黨内にも異論がある。今日の共產黨は未だ新興の氣分が旺盛だ。況んや露國民は、國際共產が多大の國努を徒消しつつある事を知らぬのである。當分は活動を続け得ると思ふ可きで無いか。乍然露國の決定的要素たる農民は國民經濟上に於ける自己の重要性を自覺した。政治上に其主張を強要するに到るは當然である。農民の向上と共に、農業政策の確立を要するに到つたのは、之亦當然である。種々の妥協政策が生れた。家畜の配與、農稅の輕減、農具供給の援助、小作人雇用、耕地賃貸の如きがそれである。露國農民の爲めには、外貿の旺盛發達が要望せられ、それが爲めには、對外干係の安定が必要視せられる、まさに國際共產と矛盾するのである。國際共產の活動は何物をも露國々民に寄與する處が無い。此活動の存続する間は、國民が眞に必要とする處の在外信用の設置が望まれぬ。此不滿が全露國民の抱く處となるであらう。

らう。

政府が大雇主である干係上、労働組合は政府に隸屬する外は無い。此處に都市住民、労働者に不滿がある。政治上の要求が大となる恐れがあり、之れに對して年々幾分の賃率増加をやつて慰撫する。商工業者が、或は將來幾分の發言權を獲やう。小民族の獨立も將來に企圖せられるであらう。宗教氣分が再び廣く擴溢し始めた。などは外國人が豫期せぬ事である。舊制の復活の如きは今日の露國に到底夢想もされない事であるが、畢竟は聯邦制度下に漸次民主的政治となつて發達を見る可きであらうか。

一九二六年十二月の國勢調査の數字を見ると、近年露國に於ける人口の復活經過は、經濟的復興經過よりも遙かに急速なるものがある。即

一八九七年調人口 一〇四、一〇〇千人  
一九一四年 一三五、六〇〇同



一九二〇年 一三一、五〇〇同  
一九二六年 一四六、二〇〇同

にして、九七年より一四年迄は千人に對し拾七人の絶對増加であるが、二〇年より二六年迄は二十五人の増加である。大戰開始の一四年より二六年迄に、戦争に依る喪失并に内亂、飢饉、惡疫に依る死亡を差引き、千六十万人文の絶對増加である。此根本的現象は、實に新露國の經濟生活に於ける基礎的的重大事實である。同時に農村より都市集中傾向は年々増加一方で

一九二三年 百七十萬人  
一九二四年 二百八十萬人  
一九二五年 三百二十萬人

の都市移動である。人口増加と都市集中傾向とは、益政治、經濟、社會上の問題を紛糾せしめるものである。

露國の現状を以てすれば、新經濟政策は足元を照らす提燈である。共產主義は永い將來に互る漸進的進化の目標である。共產主義の實現は遠方に燈臺の火を望見する様なものである。況んや世界革命は御題目である。孔子は治國平天下を説いたが、之れは政治の理想であつた。永久に理想である。世界革命は御題目なるが故に更らに高遠なものである。宗教的信念である。共產主義の實現の能否は恰も百年先きを語るが如きものである。共產主義も、世界革命理想も、高閣に列ねて、或は歴史の一頁を埋むるに過ぎないかも知れぬ。

世界革命の主導役を演ずるために、資本主義國へ突撃を試みたが、不成効に終つた。通商復舊を絶對の必要として、再び修好關係に入つた。舊債務及戦債の處理に對して、所謂惡を正義化した。曰く戦債は聯合國共同事業の投資の一部で共同責任である、聯帶責任である。舊債は、外國干涉に基く、露國の損害賠償に、應ずる事を條件とする、相互主義を主張した。斯くして豪語すらく、戦後債務を



負はぬ強みが、無産者國にあると。通商は開いたが、貿易國營の獨占である。西歐資本主義國は唯一の此搾取市場に垂涎しつつも思ふ様に手の下し様が無い。此處に露國を見るに、利害の厚薄に依て東洋と西洋との差がある。又西洋へ面して半開だ、未開だと云はれるよりも、東洋へ向いて先進國だ、指導者だと云はれる方が自尊を強める、従つて乗り出すのである。

而して革命心理の餘勢は、電氣の兩性の如く、相反する力の強い丈夫れ丈夫反撥力を強からしむる。彼れを迎へ、彼を撫し、彼を禦し、彼を導き、彼を馴らすを以て對露策とすべきでないか。否らずんば英露の如く、兩者益溝渠を深くし、墻壁を高くして相競ふに終らんのみ。彼れは若き熊の如きなり。馴らし、禦するに於て未だ手に餘るものと云ふ可からざるなり。若し夫れ狂暴を逞うするに於て鐵柵を作つて自らを護るも遅しとせざる而已。

翻て思ふに、世界大戰は、一四年七月二十八日に始まり、一九年六月十日に終局

した。一千萬の精靈を失ひ、二千萬の負傷者を出した。獨塊、露三大皇室が崩壊した。まさに大變化大慘事であつた。

産業革命の洗禮を受けて、貧富の懸隔は益甚敷い、貧民の出来るのは、どうしても避ける事の出来ない天則である。世上民衆の批判力が弱いのみならず、社會生活の缺陷が益暴露せられると色々な思惟を生む。國家生活、立憲政治其窮極や如何。人類生活の根本原理は何。生存競争を深刻に味ふと共に、人生窮極の意義に思到する。教育即認識の増大が人をして現在の反抗者たらしめ、改革を要求せしむる。現實的の皮想生活に満足し切れなくて大反省に入る。

マルクスに聴き、レニンに走るのが近頃の大流行であり、遂に新成露國を樂園視するに到る、唯物史觀論を聞いて他を顧みない。理論更らに空中樓閣を畫いて、人間生活の實際に即しない。遂に革命、共産に憧憬し陶醉するに到る。之れ露國の實際を知悉せざるに職由する。而して露國は十週年紀念にルイコフ



の報告せる如く、既に労働者の樂園にして、今後の發展は實に望洋の觀あるもの  
 の如しであるが、焉ぞ知らん三年間の戦時共產時代より抑何を學ぶ可きや。更  
 らに新經濟政策時代に入つて六年、所謂實驗主義、朝令暮改主義で一大實驗をや  
 つて、何一つ成効の域に入つたものが無いではないか。革命露國唯一の生命た  
 る労働法と社會保險とが繼かに新興の意氣を示すものであるが、既に實際の方  
 面より非常な批難がある。經濟再建の急務より此れに制限を附せんとして居  
 る。急激な變化は徒らに紛争と故障とを多からしめて、却て根本精神を滅却す  
 るものであるからである。工業の復舊は、兎も角現存したものの再運轉であつ  
 たから、此處迄發達をした。此れからの發達は眞に開拓である。實に容易なら  
 ざるものあるを想はしめる。露國の新社會より何を學ばんやである。實行を  
 離れ實際に足を付けずに、理論と空想を追ふに於ては露國はよい講師であらう。  
 之れ露人が空想人であるからである。實行主義、實際主義で無いからである。

更らに資本主義から露國を顧みれば、露國の資本主義は資本蓄積の少き爲め、  
 自由労働供給の少き爲め、交通不便のために、彼の九十年代にウヰツテ伯に依て、  
 鐵道開通の偉大なる發達、金貨本位制の採用、外資の招徠を見る迄は、遅々たる行  
 程を進んだ。此國の産業革命は甚だ徐々たるものであつた。従つて露國資本  
 家階級の實力は甚だ弱いものであつた。外資と外人技術と外人經理とに倚賴  
 する處多く、露國資本主義は即外資が大部分を占めた。此弱い資本主義は大戦  
 の緊逼の下に、必然的に眞先に破壊された。露國の政權は、半封建的な地主官僚  
 の手に在つた。

三月革命は、政權を資本家階級の手に移したが、産業停頓のために、資本家の位  
 置が動搖した。資本主義の實力が弱く、鎧袖一度觸れて、もろくも逼息した。此  
 際に乗じて労働者と農民は聯合して、遂にソヴェットを通じて政權を握つた。  
 之れが十月革命であつた。此經過を革命防止から見れば、現在の露國を現出せ



しむるためには、革命の如き破壊力に據る必要は無かつた。更らにロマノフ家が時勢と共に移る雅量ありたらば、斯の勢を作る事は無かつた。又責任内閣樹立の献議に皇帝が同意を表せられたらば、王家の尊嚴を維持する事が出来たのである。又食糧争奪騒の鎮壓に一個聯隊の出勤を以てせば武斷的に一時の糊塗は出来た。其後は如何様にもなつた。又ケ氏が文化主義、文弱ハイカラの皮相觀の持主で無かつたらば、局面の轉換に望みなしとしなかつた。彼れはレエニンの様に露人を解して居なかつた。又資本家階級の氣力と實力が今一步の押出を爲さしめたならば、富者革命の維持は無論出来た。資本主義の勢力が餘りに弱かつた。又戦争を呪ふ國情を洞察し得る事、レエニンの如き炯眼をケ氏が持つて、一路講和策に進んだりとせば、ケ氏の内閣は所謂大盤石を見出し得たのである。凡てが後の祭りとなつて、而して社會主義國更生の苦しみまた容易ならざるものがある。

### 日露干係

強大露國の實現を企圖せる、露國の近東政策はバルカン半島に果又彼斯、アフガニスタンに、何れも列強の阻止する處となつて、彼れは大平洋に方向轉換をした。

露國の極東政策は日本に取つて、最も重大なる脅威であつた。日本の開發、奮起、鞭撻は寔に露國勢力東漸の刺撃であつた。是を想へば、現在も、將來も亦然りと云はざるを得ない。

國際共産も西歐に行詰まれば、東方に方向轉換をするのである。露國に原動力が潜在し、存在する限り、此の傾向は顯著であらう。日露干係を重要視せざるばあらずである。

露國が治海州を併せて、日本海に浦鹽港(極東統治の意を建設したのは一八六



○年で多年の熟望を達し、軍事的、經濟的根據地を獲たのである。一八九一年西伯利亞鐵道を起工して、日清戦争の前年一八九三年にはスレーチンスク迄、又烏蘇里線はイマン迄開通した。此の兩地點の連結よりも、北滿を横斷して直路浦鹽に出る鐵道を布くに如かずとして機會を待った。日清役……遼東半島領有……誠實なる友誼の表明として、三國干涉で遼東半島の還附を強要した。支那に思を賣つて、其代償として一八九六年東支鐵道の布設權を獲た。翌年偶山東省に獨逸宜教師殺害事件が起り、獨逸の膠州灣、山東鐵道の布設權獲得を見るや、利權均霑を口實に、露國は關東州を租借し、更に哈爾濱旅大間鐵道布設權を獲た。南北滿州に跨り、約千六百哩の鐵道で、滿州經營の基礎が出来、延ひて韓半島の經營に入らんとした。

義和團事件が勃發した。事件終了後も露兵は駐屯した武力を以て滿州占領を實現せんとした。一八九九年馬山浦租借事件。翌年龍岩浦租借事件等日本

の抗議を無視した、不誠意な態度に憤慨して日本は敢然として干戈に訴えた。一九〇五年のポーツマス條約で、東支鐵道の長春以南の鐵道は日本の有に歸した。更らに支那との善後條約に依つて、南滿本線は民國二十八年に、安奉線は十二年に支那政府に買戻し得るものであつたが、大正四年五月の彼の日支新條約、即例の二十一ヶ條で、滿鐵は關東州租借と共に延長して九十九ヶ年となつた。即關東州は一九九九年、滿鐵本線は二〇〇二年、安奉線は二〇〇七年が滿期となるのである。

歐露とは餘りに遠い故に、極東は未開なるが故に、過去に於ても現在に於ても日露間通商經濟干係の密接なものがない。今後も當分は左様であらう。唯だ政治的に、滿州は日露利害の接觸地點である。此處へ米國が時々油を差し、水を入れる。一八九九年の機會均等、門戶開放提議がそれである。ハリマンの滿鐵及東支鐵買收問題がそれである。ノツクス、の滿鐵中立提議がそれである。錦



愛鐵道問題がそれである。日露協同步調を以て、此れ等に抗し得たのは利害が共通したからであつた。

日露手を握つて世界大戰に臨んだ。露國に革命が起り、赤化政治を布いた。一九一八年西伯利亞出兵となつたが、一九二五年修好基本條約が北京で成立し、近く通商條約締結に入らんとして居る。

滿鐵が南滿州に嚴存する事が、經濟上並に政治上日本の存在に不可缺重要性を有すると同様に、東支鐵の嚴存が露國の極東三州の確在に不可缺なる事は云ふ迄も無い。兩國が多量の犠牲を拂つたのは、寔に不可缺の必要あつての事である。日露の接觸は兩國に取つて重要であり、而て滿州は實に其重點を爲すものである。一步を誤れば禍機を孕むものである。事實は帝政であらうとも、無産者獨裁政であらうとも、變りは無い。帝國主義の潰滅を叫んでも、東支鐵道を手放す事は敢て爲さぬ。

露國革命以來十年間東支鐵道に干する露支勢力の争は、年と共に劇甚を加へて居る。利權回收を無援な露國側に強制して居る。東支鐵監理に干する列國の干涉、支那の條約上の正當權利の回收實行の主張となつた。一九一九年に警備及警察權を回收した。露國の治外法權の轍廢提議と共に、司法權を回收したが故に、露人は凡で支那の法律に遵ふ事となつた。一九二一年に行政權を回收した。即東支鐵は單なる一商業機關となつたのである。翌年東鐵土地課の強制乗取をやり、一九二四年松花江航行權を回收した。東鐵大改革を斷行して六百の露人を解雇した。幹部乗取を策して、白派長官以下三幹部員を拘引した。オストロフ長官に代つて赤派のイワノフ長官となるや、大に赤派の勢力を張つた。一九二五年東鐵を露支共同監理に移して、露亞銀行干係を極東銀行に移し、同行利用策を採た。整理を名として、白派露人警官六百名を罷免して、百餘の純赤派を以て補充し、又教育機關を赤派に移し、無國籍露人従業員を解雇する旨



を發令した。白派露人は或は職業組合に加盟し、或は支那國籍に入つた。赤派勢力振張の反動は直ぐに來た。赤派新聞紙の發行禁止、東鐵從業員は露支絶對半數制となり、赤派宣傳の激甚に伴つて、露字新聞の取締が嚴となつた。一九二六年郭松齡事件出兵の歸北に際し、無賃輸送問題より運轉中止、イワノフ長官の拘引、赤宣傳の取締、文書押收等が行はれ、赤、白を問はず露人壓迫、露人勢力驅逐策が遂に哈爾濱市役所乗取のクーデターとなつた。イワノフ長官排斥の聲を高かめて、四月同長官の辭職となり、カラハン大使の退去と發展した。一九二七年には、五月に共產黨員狩をやり、七月職業組合の閉鎖。極東銀行監査役に支那人貳名の就任、洮昂鐵道の東鐵横斷問題起り、支那側は主權論を以て強硬に主張した。因に東鐵從業員中露國職業組合加盟者は一萬一千人に達して居ると云ふ（全員二萬六千人）。猶以て露國側の根底の深き事が知られる。

東支鐵は寧ろ政治上の意味が重要性を持つ、然るに全くの商業機關となり了

した。露國人であればこそ隱忍する。沈黙して居る。乍然永久の隱忍、沈黙であらうか。南滿鐵の嚴存振りと對比して、思半である。東支鐵の商業的經營に到つては其繁榮は近き將來に待期される。山東省の避難民が昨年丈けでも八十萬人以上東鐵沿線に移住した。地は廣くして未だ拓けず、特産の本場は既に南滿にあらずして、北滿に移つた。今後の開發想ふ可しである。

今を去る百十七年前、我文化八年露艦國後島に到り、艦長ゴロウニン欺かれて戍兵に擒えられ、松前に送られて獄囚となり、三年を経て歸國した。彼れは逢遭の事相を書いて、皇帝亞歷山一世に奉つた。出版せられて、更らに各國語に翻譯せられた。日本を露國に紹介した、最古の著書の一であつて、日本傳導を發念して文久元年に函館に來た、彼のニコライ僧正は、實に此書を読んで、日本山水の秀麗と、國民の淳良なる事を知り、教化の念已み難く、遂に日本に引き付けられたのであつた。彼れと日本精神界との交渉は説く迄も無い事である。ゴロウニン



の幽囚記一部彼れは擒囚の憂身でありながら、公正を失せず、よく日本人を正観した。彼れの炯眼を以て書いたか故に、日本は百年前に、露國によい感情を以て知られたのである。往昔は歐州に蟠居する獨逸を加盟して、日露手を握つて歐亞の和平を確保すべしとした。日露協約は此精神であつた。知らず露國の政治家は如何に對日策を定めつつありや。露國は安政五ヶ國條約以來、吾人に取つては耳熟する國である。而して我は彼れをまつに平和を愛する自由の精神友誼の情に變りが無い。彼れは國際共產主義、日本赤化の魔手を擡げて來るか。我國體に反する主義、我々國民生活の本質を紊だす宣傳は容認し能はぬは勿論だが、彼れまた猪突主義一點張の智惠無しでもあるまい。我國、我國民を解するに到るであらう。非禮は敢て爲さぬ處であらうと信するのである。

筆者は過去に拘泥するために、長々と書き出したのでは無い。過去の一切は露國々力發展の必然性と、我の自衛、國家創造上已むに已まれぬ折衝であつた。

今や兩國は過去に拘泥せざる賢明を以て親善に入る可きでは無いか。彼れが共產主義を持し、無産者獨裁制を強調するとも、彼れは彼れ、吾れは吾なりである。若し夫れ日本赤化の如きは、彼れの我れを解せざるの致す處である。彼れに説き、彼れに誨ふ可きである。而して國內の附和雷同輩を清掃すべきであるが同時に論理的原因を除去する社會政策の實施に銳意すべきである。

### 恐怖政治

露國特有の制度に探偵制度がある。ゲーパーウーと言ふ。此制度の内容は外人に明かでないが、恐らく露國人にも判らぬのみならず、其眞の使命に到つては二三の人以外には知られて居ないと云ふ説もある。國境に在つて密輸入、密出國を取締るものと、國內全般に互つて見張りをするものとに區別も出來る様だ。全國に互つたゲーパーウー網は水も洩らさぬもので、相互連絡の完備せる



事は世界無比であると言ふ事である。ゲーペーウーの手先き代理を勤めるものは、幾十萬あるか判らぬ。五人の露人が集まれば、其内の一人は其手先と覺悟せねばならぬと言ふ。壁に耳あり、簀垣に眼ありで、片言隻語も忽諸に出来ない恐怖制度である。此秘密警察は、イワンテリブル時代に創つて、國の中に更に一國を形成した様なものであつた。ボリスゴドノフ時代には貴族、富豪、僧官が寄りたかつて此中間入をして、告發、中傷、相互陥擠をやつたと言ふ。以來探偵……恐怖……政策……處刑は不幸なるニコラス二世迄繼續された。何れの國、何れの時代にも多少はあるが、其社會は凡ての者が告發者であり、被告者たるので良心の痲靡、意思の奴隸化、人類の寛容性が憎悪性に代つて、親子の間にすら信用が措け無くなる。探偵に更に探偵を附ける様になる。餘り眼が多いと言ふ事は眼が無いと言ふ結果に來る。當然の歸結として、文化の頽廢、精神的發達の停止となる。露國の新興精神を善に導く制度として見る可き現制度が或は誤つて

腐敗への途となるのでは無いか、と云ふものもある。

現ゲペウ制は、革命直後、反革命抑壓手段として、舊制を其儘復活し、一夜の中に建設したものである。悲惨なる革命悲話は悉く此處から生れたのである。赤の恐怖が即之れである。今は之を國家保安部或は政治警察と言ふ。反社會主義行爲、言論、政府官吏、國營企業使用人の素行、營利取引、營利人の監視及國事探偵、經濟探偵の監視をする。苟も一言の主張あるもの、多衆の注目を引くものは此監視を免れる事が出来ぬ。此制度の監視下に在る外國人は、頂度、維新前の江戸に來た外國人の様なものである。

法律が革命國の法律であり、無産者が政權を把握して、他階級を壓倒し、資本主義發達傾向に對して、絶對攻勢をやめぬ限り、また或る範圍に於て資本主義を許容して、其發達を絶對監視する限り、法に觸れる者の多いのは當然である。世上萬般の事を新政治、新經濟組織で支配者即共產黨の考える通りに、萬人を考えし



め様とする。獨裁政治の特長はやつて見る主義で、思ひ付いた事は何でも無遠慮、無制限に試みる、悪ければ直ぐ改めると言ふに在る。従て出る法律が無制限で國民は適從する處を知らないに拘らず、市民の頭と體とを一様に律する。法に觸れる者の多いのは當然である。

反革命の罪。反革命の意義が漠として擱めない。解釋次第で何でも、此罪に問はれる。國事探偵は讀んで字の如しだが、其捲添を喰ふ者は解釋次第である。經濟探偵と云ふ、不可思議な罪名が嚴存して居るから、外人と會ふ事を避ける、報告書を呉れる事を避ける。此國の經濟方面の官商人を腦まして居る。スベキユラント罪がある。之亦解釋が區々である様だ。

經濟的活動に一步を入れたり、外國人と面接交際、通信したりすれば、即刻之れ等の猜疑を以て監視を受ける。警察側では凡てを反革命的に見勝であるから監視を受ける瞬間から生命の危險に暴される譯だ。

逮捕するのに理由を言はぬ。流刑に處せられても、斷罪の理由を明かにしないらしい。斷罪の基礎が、一に監視者の心證によるものらしい。即之れが恐怖政治である。恐怖とは其斷罪が裁判に依らぬからである。ゲペウが絶対權を持つからである。革命後に之れあるは、佛革命後に於ても然りで、反革命抑壓は必然の手段だが、巴里の市民が之れを憎む日が來た時に終りを告げて居る。革命の專制期間で終つて居る。現露國は戰時共產時代の如くならざるも、依然として恐怖政治であつて、露國民と同じく外人の頭を常に刺撃して居る。殊に外國人は異口同音に、露國々境を出入した時の感想を語る。入る時には言ふ可からざる威壓を感じ、出る時には言ひ知らぬ身輕さを覺ゆるのである。之れ、ゲペウは、其生活振り、活動並に行爲が労働者及農民の國家の主義並に秩序と合致せざる外國人を追放するの權限を有するからである。露國人は個人的意思を抑えて強力の前に縮み上つて居る。恐怖の日常に慣れ來つた。之れは、古今



の歴史に無い現象の様だ。人民の訓練と全部の同意が、即社會主義國の實現だとレエニンの言つたのは國で無くて社會であるが、露國現状では社會を作るに非ずして斯うした頑固な國を形成しつつあるのである。

ゲーペーウーの本部を死の船と言ひ、流刑者の多い、ソルベツギ修導院を死の野營と言ふ。露國人に取つては恐ろしい聯想であり、恐怖である。此制度が必要である以上幾分の不安がある。乍然此不安は社會主義制を、今日の儘押し進める以上は除去され無いであらふが、此強い壓力が共產黨の掌中に固く握られて居る間は、反革命も、陰謀もあり得ない。露國の政情が安定せると言ふ事は、即此頑固な制度が嚴存すると言ふ意味に外ならないと同時に、此制度廢止の期は遂に無からうと思はれる。露國特有の制度。此國に限つて發達した制度、嘗てはイワンテリブル以來皇帝と官僚が此を握つた。今は共產黨が之を握つて放さうとしない。然り、共產黨が政策を變えない限り、此制度は活動を止めないの

である。換言すれば永久に恐怖政治下に在るのである。

世間よく赤の暴虐、非人道を云ふ。同時に白の暴虐、非人道のあつた事を知らねばならぬ。凡て此れは革命心理の然らしめたものと見る可きであつて之を以て直ちに露人を責むるは賛成出来ぬ。最後に西部戦線に現れた米軍の行動は、大戦中最も慘虐を極めたものと云ふではないか。革命心理は直ちに復讐となり、富豪を殺し、僧官を殺し、壓迫者を斃さずんば已まぬ。赤白の同胞骨肉の相殺戮は實に慘鼻の極であるが、時の勢ひが生んだ結果である。斯かる事態に到らしめた慟慟、社會的缺陷を惡むのである。斯かる彈壓制度の常置を必要とする社會の不安を憐れむと共に國民の不幸を想ふのである。

### キーネス教授の露西亞觀

ジョンメーナードキーネス教授の露西亞管見は頗る筆者の意を得たものである



から大要を此處に紹介する。

共產主義の主張は資本主義と同敷物質的經濟利益を獲得するに當り、自然力をより多く利用せんとするもの様だ。經濟技術に外ならないのである。

共產主義の中心は個人及社會である。レニン主義は非超自然的に外ならない。故に、金錢的働機の輕重に變化が來た。これ迄の社會上の模範行爲と言ふものが變つて來た。社會的賞讃が變つた。適切に言ふと資本主義國では金儲を善い事に言ふ。營利會社へ就職する事を羨望する。之れに反して官吏に對する敬意は薄く、同時に官吏となるを好まぬ。然るに露國では金儲生活は盜賊か詐僞かに思ひ做す。經濟上の獨立だとか、安全だとか、又勤儉貯蓄などを反道德だとする。其處に一の社會信條が出來て、人は社會の爲めに働く可きもの、社會は働く者を引き上げると言ふ事になつた。

此新社會では營利を目的とする取引は禁止はせぬが、誠に不安、且、不名譽なも

のと見る。故に私營取引者は公權を享有せぬ、權利も、保護も無いのである。斯様に金錢に對する見方が變つた以上、子孫の時代には非常に變つたものとならう。今日の露國の人は金儲又は蓄財を考慮に入れる事は難しいのである。

レニン主義を見る二つの途は、迫害的、傳導的、宗教と見るのと、實驗的、經濟技術であると見るのとある。實際應用に當つては、やつて見る、惡るれば改める式で押し通す。之れが特長である。貨幣を計算分配の要具と認め、智識階級、私營取引者、外國資本家等を認めるに到つたなど其實例である。從て朝令暮改應接に追が無い。見方が異なれば眞であり、同時に偽である。觀察者によりて正邪の兩面に別れる。此經濟的實驗、やつて見て改める式は、今後平和と順調な天候を以てして、少くも五年を要すると信ずる。

此新社會主義國の本質は、(一)教育機關の掌握、(二)國營取引技術の進歩、(三)國家資本の膨脹であるから、各其運用の功不功妙、が國運の進退を決めるのである。



此制度も兎も角永續性を有する事は事實だ。露國民の七分の一が都會住で、七分の六が田舎住である。革命後十年間に起つた、凡ての事相は都會と田舎の對立に歸せしめ得る。

都會住の勞働者の七百萬人は、自己の生活が正當化されるよりも高い標準の生活をして居る。即都市民は農民より搾取して居る。此制度を破壊する新政府の出ない限り、農民は泣寝入の外は無い。

物價政策は農民に不利に極められる。外國貿易の政府獨占と、工業生産の政府獨占の結果は、必然斯うなるのである。

留布の對外比價は下落して居るに違ひ無いが、貿易の獨占で爲替を平價に維持して居る。

眞面目に考えたら、今日の經濟の主眼點は、財政状態を強固にして農民が拂ふ價格も、農民へ拂ふ價格も、實際價に接近せしむる事である。都市生活丈が良く

て、田舎生活丈が悪いのでは不可だ。

失業者も多い、實際は定めし莫大な數に上つて居ると思はれる。相對的賃銀、相對的物價の不調和があるが、或る程度の安定は政治上、經濟上に見られる。無能を發揮して居ない。存續し得ない程無能な國ではないのである。經濟生活の全般に互つて一の組織が樹立せられた。而して死と餓とより出立したる生活標準が樹立せられたと言ふ可きである。

共產主義の存續力は大衆を捉え得るか否かにある。此國の經濟上の無能を誇張するのは元より誤りであるが、宗教として共產主義の眞價を過少視しても不可である。急劇な變化に訴える時には、凡ての物を失はなければならぬ。露國の今日から見ると、革命を必要手段とする經濟上の改善とは思へない。宗教として見ては如何。普通人の大衆を捉え得たが、況んや同宗者を結合する力は共產主義が強いに相違ない。近代の資本主義は非宗教的であり、非公共



精神であり。一の集合に過ぎぬ。理想主義であり、統一ある、自信のものであつたのは昔の事である。然し経済的樂園……生活水準の維持……から云へば近代資本主義は手段としては無難でも、目的としては満足されない。今日の吾人の生活は人間活動の九割迄が金銭の愛好であり、個人経済の安定の爲めであり、金銭を以て人間成功の尺度とし、家族子孫のために貯蓄本能に訴える。斯くして周囲の宗教は最早道德的意義を失つた。経済的進歩に道德的、目的が伴はざれば物質的利益の爲めに一日と雖も道德を犠牲とすべきで無いと、云ふ様に宗教とビジネスを區別する事は、今日は出来ぬ。

金銭に對する吾々の思想及感情に革命が寄與した事は大きい。現代思想界の具體的目標が變つたでは無いか。露國は精神的の力以外には諸外國に大なる影響を與えぬであらふが、精神的の力としては大きいものがある。其理想の閃が新露國の暴政、愚劣の下に隠れて居る。

レエニン主義は畢竟宗教とビジネスの結合である。此處に共產主義者の信仰がある。宗教としては、新らしいから力が強い。宗教に従屬せしむるが爲めにビジネスは能率が低い。多數ならざるも熱狂的信者がある。抵抗せる者には假借なく迫害を加へる。傳導の熱情と世界教化の野心に満ちて居る。レエニンはビスマークに非ずしてマホメットである。新約聖書の教ふるが如く、經濟の實行、宗教裁判、布教機關の使用を併用するものと見られる。此レエニン主義の布教が、大衆を捉ふるや、否やは人間性に反するものなるや否やであるが、近代人が露國に何物かを得んとする状態にあるは、靈魂に共鳴するものがあるが爲めであらふ。また存続を可能ならしめぬ程無能でもあるまい、時の経過と共に大衆を捉えも仕様う。何れにしても露國革命、共產黨專制は日常生活の自由と安穩とを破つた。その損失は至大と言はねばならぬ。破壊と……内亂、黨内の抗争……得る處がある哉否や。



## 一九二七年のモスクワ

行客の露國を過るもの、浦鹽より、滿洲里より、果また芬蘭より、坡蘭土より入るとを問はず、足一度露國の土を踏む時は、如何にも貧し相な服装、靴無しの小供、修繕の到らざる住宅が目につく。これ等を打消すに足る、美装とまで行かざるも、恰好のよい丈の士女に出逢はない。戦前に於ても斯うであつたかも知れぬが、驛々に物賣る村のもの等が、哀を乞ふ様な物の言ひ態、空瓶を呉れろとせがむ小供等を見ると、大戦、革命、内亂を思ひ出さずにはおかれぬ。犇々と行容の胸を打つものがある。

けれどもモスクワの驛頭に着くと、昔しながらの大都、二百萬市民を擁する大都城が、十五世紀以來の歴史を其儘に行客の前に展開する。數々の寺々、高き鐘樓、歴史的な大門、亞細亞へ向ふ門と稱するカザン驛の尖塔、近世式な八階九階の

アパートメント。宛として西歐の大都市に劣らぬ。アスハルトの代りに丸石を敷き詰めた町、馬車が多くて、自働車の少い町、買ひ出しに行く主婦、學校へ通ふ子供、絡驛として織るが如くである。疲労と貧しさを包み隠す事が出来ぬらしいのが僻目にそれと認められる。

一足の靴下、三碼の更紗を求むるために、國營商店の入口には數町の行列が終日立ち続ける。買付手数料を目的とする投機者だとして、別段それ等の顧客の便宜を計らうともしない。此れ等か露國式である。

人通りの多い街には、露店商人が二三尺の携帶店を併べて居る。制帽を被つて居る煙草賣りや、チヨコレイ賣りは夫々製造會社の小賣人である。果物賣、切花賣も居る。更にまた銀座通りには、もつと手輕な一握りのレースや、小本を持つて聲高に叫びながらに賣るものが列らんで居る。これ等は一種の失業救済で三ヶ月を定期に許可するものであると云ふ。



ダイヤモンドや、装身具や、銀器、金器を商ふ宏大な店舗に飾り立てた窓がある。其近くに高貴な毛皮のみを賣る高級店舗がある。美しい店飾をのぞきながら乞食の群れが通ると、直ぐ其後に家無しの不良兒の群れが隠れる様に人込みへ姿を消す。人品卑しからぬ物賣老婆が聲高に何か呼んで居る。

四十幾つの大小劇場や、數多き映畫館、何れも連夜滿員の盛況續きである。大劇場、小劇場、藝術座、諷刺劇場、猶太劇場の如きは規模と内容と共に、世界的のものである。大劇場の如きは一舞臺に四百人以上が立つ、オーゲストラが百餘人からなり、二千餘人の觀客を入れる事が出来る。ある丈の美衣に、装身具に出来る丈、美しく見せて、昔しながらの傳統の下に、楽しい一宵を過さんとするのである。朝に、晩に、寺々の鐘が鳴る。勸行の其鐘は、蓋し昔からモスクワの名物であつたらう。今も然りである。寺々には必ず高い鐘樓がつきもので、三階、四階又は五階の中空から鳴り出る鐘の音は、暫しの間、全都を鳴り被ふのである。安息日

の寺々は、朝夕の勸行があり、善男と善女とが靜かに跪座して、十字を切つて、聖像に接吻する。默禱振りの敬虔なる態度よ、神々しい情景よ。

更らに又復活祭が近づくと、ブリヌイを食つて肉食を絶つ。祭りの盛り菓子が店頭を埋める。御祭費用の調達のため、質屋の庭に二晩、三晩も夜明かしをする無産の市民。祭日の前夜は十二時より朝まで祈禱があつて、どの寺も參詣者で一杯である。細長い蠟燭に點火したのを持つて默禱の三十分、一時間を過す者が入れ變り、立ち變りする。祭日には日本の正月と同し様に、友人知己を訪ね合へば、どこの家でも一皿なり、一杯の酒なりを攝らせずには決して返さぬ。

十五世紀より十九世紀迄の東歐文化の華であり、博物館であると誇る、クレムリ宮は、燕尾をつけた城壁や尖形の壁塔や、ウスペンスキー大伽藍や、イワンの鐘樓や、果又帝の鐘や、中空に光る金十字、金鷲と共に凡てが昔の儘で、些の破壊は勿論、改造も、變形も加えられて居らず、モスコウ橋上の眺望は陸上の龍官殿其儘で



ある。

往時は貴族の町、全露の富を集めた町、大露國の心臓であつた町、佛蘭西のハイカラを模倣して、一種の文化を作り上げた町、華奢、風流は此處に求められた。遠來の珍客は云ふも更らなり、交遊に、宴樂に、或はブラハへ、エルミタージへ、或は大モスコウホテルへと足を向けたのは昔の夢となつた。夜を徹する盛宴、亂舞、亂踏や、美酒、佳肴、豪奢を衒ふ場所と遊蕩とが無くなつた。今日のモスクワにそれが見えぬ。ただ夫れ丈が前と異なつた。

新經濟政策と共に、ホテル、料理店が再び開業したが、客人は職業組合員、政府役人及黨員であつた。新政策の副産、新成金が忽ち、優秀な客人となるや、一九二三年の秋、新成金征伐令で贅澤な料理店は閉鎖の運命に遭つた。モスクワ士女の嗜好は高級食糧店に向けられた。食糧店は此要求に應じた。王者の食膳に上るものから、瓜漬に到るまで店頭に陳列せられた。美餌の仕入れを此處に求め

て、ウオツカの一瓶を買つて歸れば、家庭の晚餐は、一流料理店の奉仕するものと些の變りが無い。事務所の退け時が食糧品店の混雜する時である。成金征伐は一流料理店を閉鎖して、美食と美酒とを家庭へ持込んだ。

メイデーの行列も革命祭日の行列も準備された、狩り出しに外ならぬ。色々の景物を添えて、ねつて行く様は全くの御祭騒ぎである。年中行事に此二つが加はつた。

家庭に客となれば、昔ながらに自分と家族とを赤裸々に客の前へさらけ出す、隠す處が更らに無い、氣心のよい、全く、氣持主義の露人氣質は少しも昔と變ら無い。デミアンのスリーブ式で山の様に盛つたパン、盛り澤山の皿に、御馳走の分量や、皿數に少しも經濟乃至量の觀念が無い様な、大まかな事や、宵越の錢を使はぬ其場限りの氣前は、今も昔と少しも變らぬ。

長男が共産青年に加盟した。就職と出世が彼れの願望であつたからであら



う。妹は大の共産嫌で、自分をバリウして呉れる男が無いから、結婚をせぬと自重する。息子が教會結婚を承諾せぬのをつぶやく両親。斯かる不調和が生れて来た外には露人の日常生活に革命が與えた何物をも見出し難いのである。六月になると郊外の別荘へ行く。森に遊び、野に遊び、野川に泳ぐ。秋になると再び都の生活に還る。羽振のよい者は高架索へ、クリミアへゆく。

雑居の**アパートメント**をのぞくと、此處に新らしい露西亞が見える。月極家賃が坪當り最低二十五哥より、最高十五留布迄、職業と収入高に依つて決められる。昔日の富者、商人、貴族と云ふものや、被雇職業を持たぬ獨立商人や、醫者や、辯護士やなどは高い率を課せられる。其結果以前二階以上に住んだ者は地下室へ遷り、以前地下室に居たものは二階以上へ上つた。地下室は坪數が少くて、従て家賃が安いからだ。社會の上層のものが下になり、下層のものが上になつた。此れが革命であつた。勞働者の隣に大學教授が住み、美容術屋の隣に車掌が居

る、其隣に共産黨員が居ると云つた有様、露國社會革命の總決算的宿圖は蓋し此處に在るだらう。此處が革命露國を代表して居るかに見ゆる。

夜の幕となれば**ツベルスカヤ**の大通りには、嬌艶な姿態を資本とする女も歩るけば、**サンドノスキ**湯屋の近傍には更らに低級な女性が彷徨する。公園には兵士や巡查をあての女も出る。同時に巴里の新流行を其儘に、短袴にスツキリとした脛を見せて、華奢な靴、奇形な帽子、美しい毛皮で肩の邊を覆ふた、幸福な新時代の勝利者が目につく。日を経月を重ねるに従つて巴里風が増して来る。

赤の廣場へ入口の**イーベル**門の祠堂には奇蹟の多い、聖母像が祭つてある。日夜參詣者の絶間が無いが、祠前の右の舊市役所の壁には宗教は阿片なりといふ**レエニ**ンの有名な句が大書されてある。此の好對照も此時代を説明して居るが、更らに門を這入つて左折すると、直ぐに神聖露國と革命露國とが店頭で背なか合せをして居るのを見出す。金色の**イーコン**、聖棺や、錦繡の僧衣を窓の半



分に列べて、他の半分は、星章と、鎌と、鐮の印を入れた、大小の赤旗が、旗竿と共に飾られてある。試に内へ這入つて見ると、赤旗と旗竿とを買ふものとイーコンや祭具を買ふものとが入り交つて居るが一向に異様に見えぬ。此れが新經濟政策の今日のモスクワ生活をよく現はして居る。

革命の總決算は何等の變化もモスコウ人に與えて居らぬ、昔ながらの露人と露國生活である。ただ上下位置の顛倒があつた丈けである。而して新らしい者も古いものも貧乏に變る處がない。

### 露國重要法發布年鑑

月 日 事 項

- 一九一七、一一、七 臨時政府倒滅、全露勞兵、人民代表大會開催
- 一九一七、一一、八 全露勞兵、人民代表大會第二例會ニ於テ「戰爭及平和ニ關

- スルデクレト及土地ニ關スルデクレトヲ可決、人民委員會及全露中央執行委員會成立
- 一一、一一 人民委員會會議ニ於テ八時間勞働制可決
- 一一、一五 露國人民ノ權利ニ關スル宣言
- 一一、二三 階級制度廢止ニ關スル「デクレト」
- 一一、二七 裁判ニ關スル人民委員會會議「デクレト」
- 一一、二八 直接稅徵收ニ關スル人民委員會會議「デクレト」
- 一一、二八 農具專賣ニ關スル人民委員會諸決定
- 一一、二七 土地委員會ニ關スル決定及土地並農業問題ニ對スル土地委員會ノ關係スル訓令決定
- 一一、二七 銀行國有及銀行ニ於ケル金庫沒收ニ關スル中央執行委員會「デクレト」



- 一九一八、一、二 革命裁判ニ關スル「デクレト」
- 二、八 太陽曆實施令、商船國有令、私設銀行株式資本沒收ニ關スル「デクレト」
- 二、一〇 帝政時代ニ於ケル國債破棄ニ關スル「デクレト」
- 二、一九 土地國有令發布
- 四、二二 外國貿易國有令
- 五、一 相續權廢止ニ關スル全露中央執行委員會「デクレト」
- 五、二 砂糖工業國有令
- 五、一四 剩餘穀物徵發及穀物專賣ニ關スル「デクレト」
- 六、三〇 大企業國有令
- 七、一九 露西亞社會主義「ソウエト」聯邦共和國憲法公布前、廢帝及皇室財產國有令

- 七、二二 織物專賣令
- 一、二 臨時革命稅ニ關スル「デクレト」
- 一九一九、三、二 第一回國際共產黨大會「モスクワ」
- 第三「インターナショナル」成立
- 三、一二 國營企業金融法
- 三、一八 第十八回露國共產黨大會ニ於テ黨ノ綱領ヲ可決ス
- 三、二〇 單一勞農消費組合ニ關スル人民委員會會議「デクレト」公表
- 一九二〇、一、一〇 北部地方ニ於ケル森林伐採及「モスクワ」「エストニア」間鐵道敷設權ニ關スル利權ヲ「エストニア」ニ附與ス
- 一、二七 各種「コーペラチフ」ノ聯合ニ關スル人民委員會會議「デクレト」
- 一、二三 利權ノ經濟的、法律的條件ニ關スル人民委員會會議「デクレト」



一九二二、三、二二三

現物割當制度ヲ廢シ租稅ヲ施キ且剩餘穀物ヲ自由ニ處分シ得ルコトニ關スル「デクレト」

三、二八

現物割當ヲ完了セル諸縣ニ對シ穀物、馬料、乾草、馬齡薯等

五、二四

ノ交換販賣、購入ノ自由ヲ認ム

六、三〇

小工業及手工業製品ノ交換、販賣、購入ノ自由ニ關スル「デクレト」

七、一九

貨幣使用制限ノ徹廢及預金爲替業務開發方法ニ關スル「デクレト」

七、二六

最高國民經濟會議所屬企業貸下規定ニ關スル「デクレト」

七、二九

商業ノ開始及其ノ營業ニ關スル訓令及其監督規定

七、二六

營業稅ニ關スル「デクレト」

八、九

新經濟政策施行ニ關スル人民委員會議布告

八、二五

新經濟政策實施ニ關スル全露中央執行委員會幹部會

九、一〇

ノ決定

一〇、一六

關稅ニ關スル基本的規定ニ關スル人民委議「デクレト」

一〇、一七

國立銀行條令、國有財產保險ニ關スル「デクレト」

一〇、二八

個人及私設會社ノ財產沒收徵發ニ關スル人民委員會議「デクレト」

一〇、三一

戰前債務承認ニ關スル露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」

一一、二六

共和國宣言

一一、二七

金及「ブラチナ」工業ニ關スル「デクレト」

一一、二七

國庫紙幣發行ニ關スル「デクレト」

一一、二七

煙草消費稅ノ實施



- 一、二、二二 商工業營業所及貯藏場所貸下及其料金ニ關スル「デクレト」
- 一、二、二〇 共和國ノ所有ニ歸セル企業ニ關スル全露中央執行委員會及人民委員會會議「デクレト」
- 一九二二、一、〇二五 電化計畫ニ關スル「デクレト」
- 一、一二 失業保險ニ關スル「デクレト」
- 二、〇一三 營業稅ニ關スル規定
- 二、〇一六 印紙稅規則
- 二、二二三 鹽ノ專賣及鹽ノ消費稅ニ關スル「デクレト」
- 三、三 勞働者及職員ノ雇傭及解雇規定
- 三、一八 歐露方面關稅率ニ關スル「デクレト」
- 三、一三 外國貿易ニ關スル全露中央執行委員會幹部會ノ決定

- 三、二〇 爲替法
- 三、三〇 一九二二年度型紙幣流通
- 四、四 金銀「ブラチナ」寶石、外國有價證券ノ流通ニ關スル「デクレト」
- 四、一三 鐵道運賃決定
- 四、二六 商業ノ開始及經營ニ關スル許可制度ノ廢止ニ關スル人民委員會會議決定
- 五、二〇 土地爭議審査ニ關スル決定
- 五、二一 穀物債券法
- 五、二二 「ニジニノヴゴロド」定期市開始ニ關スル勞働國防會議ノ決定
- 五、二五 單一現物稅ニ關スル決定



- 七、一七 租稅及公課徵收規定
- 七、二七 國營企業及「コーペラチフ」等ニ於ケル爲替及金ノ取扱ニ關スル勞働、國防會議ノ決定
- 八、一一 單一現物稅徵收ニ關スル決定
- 一〇、一一 銀行紙幣發行ニ關スル勞働、國防議會決定
- 一〇、一六 外國貿易ニ關スル全露中央執行委員會及人民委員會會議決定
- 一〇、二四 賃金ニ關スル規定、一九二三年度型紙幣ニ關スル決定
- 一〇、二六 「チエルオーネツ」鑄造ニ關スル決定
- 一〇、三〇 土地法ニ關スル全露中央執行委員會ノ決定
- 一一、一六 民法施行ニ關スル決定
- 一一、一九 勞働法施行ニ關スル決定

- 一一、一六 所得財產稅ニ關スル決定
- 一一、二三 所得財產稅施行ニ關スル規定
- 一一、二六 勞働稅ヲ金錢稅徵收ニ改ムルコトニ關スル決定
- 一一、二九 職業及商工業調査ニ關スル決定
- 一二、三〇 第一回社會主義「ソヴェト」共和國聯邦大會聯邦政府成立



昭和三年五月二日 印刷  
昭和三年五月七日 發行

不 許  
復 製

發行所

露西亞の輪廓  
(定價 金壹圓)

著作者 横 井 半 三 郎  
東京市芝區琴平町三番地

發行者 室 伏 友 作  
東京市京橋區越前堀二ノ一

印刷者 松 橋 可 吉  
東京市京橋區越前堀二ノ一

印刷所 王 友 舍 印 刷 所

東京市京橋區越前堀二丁目一番地

王 友 社 出 版 部

電話 東京 橋 七 九 七  
振替 東京 二 五 五 六 〇



發行所

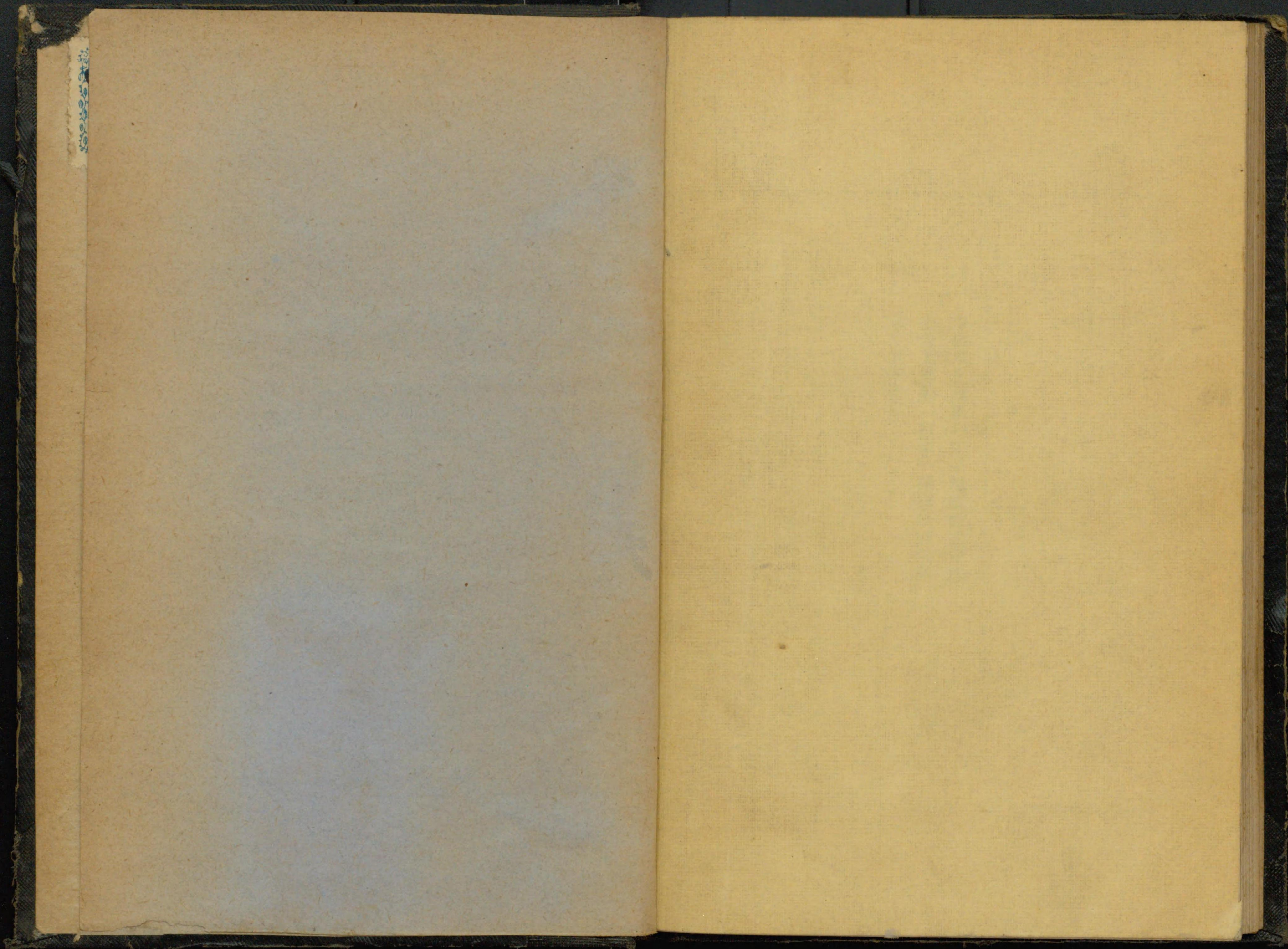
王子製紙株式會社

東京市芝浦區新橋二丁目一番地

本書本文用紙ハ王子製紙株式會社  
小倉工場製「白羊」印刷紙四六判  
五十五听ナリ

1920

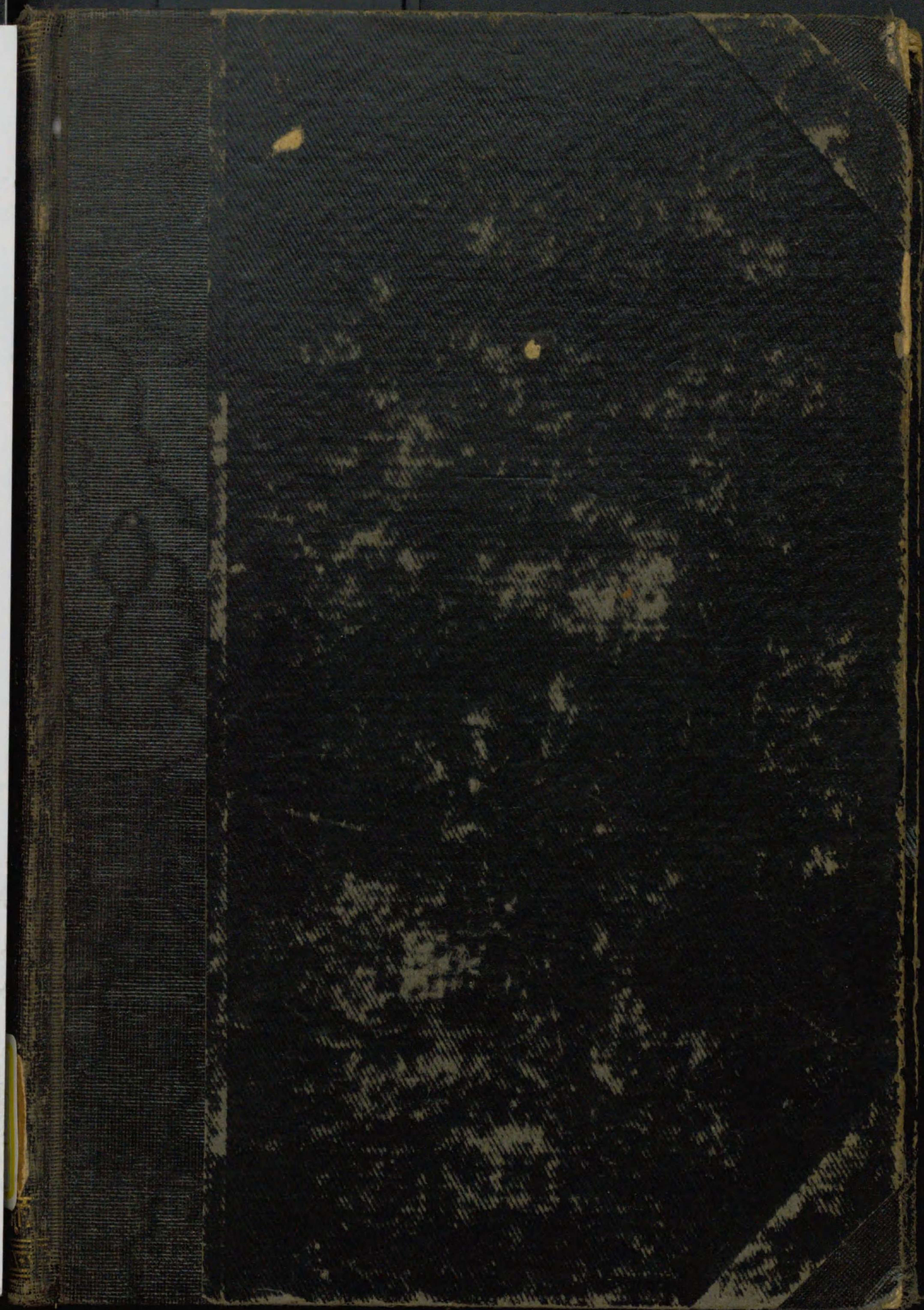
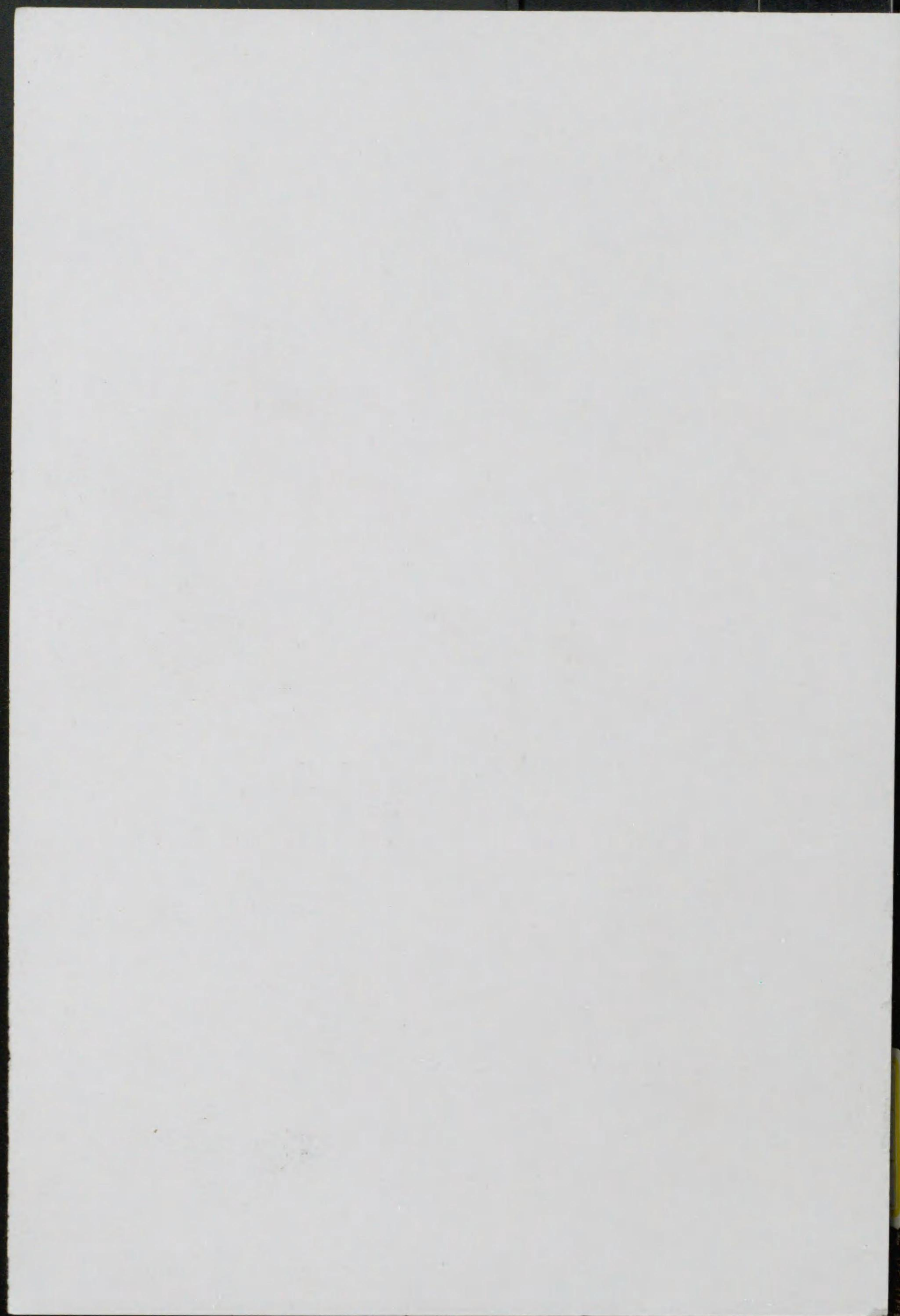






575  
190





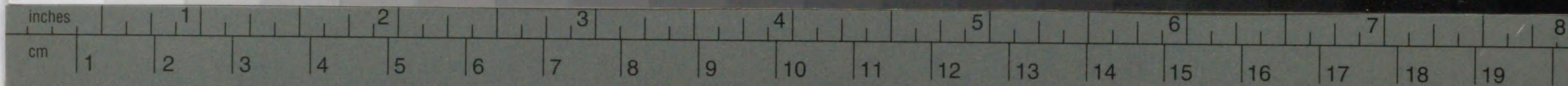


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

